安息日聖書教科

パウロによる福音：
ガラテヤ人への手紙

Vol. 97 No.4
2021年10月-12月

目次

1. パウロの改心と召し 5
2. ガラテヤにある諸教会へ 10
3. アンテオケに進む 15
4. 調和して成長する 20
5. まったく恵みによって生きる 25
6. どちらの主人に従うか? 31
7. 恵みの契約 36
8. その純潔さのままの福音 41
9. クリスチャンの自由 46
10. 御霊によって歩む 52
11. 肉 対 霊 57
12. 弱さと悪が見られるとき 62
13. 十字架を掲げる 67

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

セブンスデーアドベンチスト改革運動世界総会安息日学校部(P.O.Box 7240 Roanoke,Virginia 24019-0240,U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.97,No.4

編集&発行:
S DA改革運動日本ミッション

〒368－0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ケ久保1607－1

TEL : (0494) 22-0465

URL :
http//www.4angels.jp

E-mail:
sdarm.shomaru@gmail.com

イラスト : IIllustrations: Good Salt on the front cover; Adobe Stock on pp. 30, 72; Map Resources on pp. 4, 51, 72.
.

Printed in Japan

まえがき

今期、全世界の安息日学校の生徒たちは、パウロによる福音について彼のガラテヤ人への手紙の中に表されたとおりに研究していきます。この短いながら力強い手紙から、わたしたちは何を学ぶことができるでしょうか。

「〔ガラテヤでは〕、多くの者たちは、ユダヤの習慣や儀式を守る必要がある、また救いには、キリストの血を信じることなく、ただ律法を遵守するだけで充分であると教えた。」（患難から栄光へ下巻 257）

「パウロは、かつてその生活に神の力を経験した人々に、福音の真理に対する最初の愛に立ち帰るようにと訴えた。彼は、彼らが、キリストにあって自由な男女になれること、またキリストのあがないの恵みによって、完全に献身する者はみな彼の義の衣を着せられることを、反駁することのできない議論によって、彼らに示した。救いを得たいと願う者は、神の事について、真実で個人的な経験が必要であるというのが、彼の立場であった。」（同上 72）

「パウロは、ガラテヤの信者たちを襲った危険な影響から彼らを救い出そうとすれば、最も断固たる措置を取り、最も厳しい警告を発しなければならないことを知った。」（同上 70, 71）

「キリストにある贖いは、神の律法の違反をやめ、すべての罪から自由になることを意味する。神の律法に対する恨みにかきたてられる心はだれもキリストと調和していない。キリストは宇宙の前で律法を擁護し、高めるためにカルバリーで苦しまれたのである。」（信仰と行い 95）

「［キリスト］のほとばしる血潮、破られた体は、破られた律法の要求を満足させ、こうして、このお方は罪が生じさせた深淵に橋をかけられた。このお方が肉において苦しまれたのは、ご自分の傷つけられ、砕かれた体をもって、無防備な罪人を覆うことができるためであった。カルバリーにおけるこのお方の死で獲得された勝利は、宇宙に対するサタンの告発する力を永遠に打ち破り、神にとって自己否定は不可能であるから、人類家族にもそれは重要ではないとする彼の告発を沈黙させた。」（神の驚くべき恵み 153）.

「神は、すべての家族に、すべての教会に、すべての施設に、天の計画が実行され、天の神聖な秩序と調和が行き渡ることを望んでおられる。この愛が社会にパン種のように働くなら、わたしたちはクリスチャンの洗練と礼儀のうちに、またキリストの血で買われたものに対するクリスチャンの愛のうちに、高尚な原則の働きの完成を見るようになる。霊的な変化がわたしたちのすべての家族のうちに、施設のうちに、教会のうちに見られるようになる。この変化が起こるとき、これらの代理者たちは神が天の光を世に与える器となり、こうして神聖な規律と訓練を通して、男女を天の社会にふさわしいものとするのである。イエスはご自分の愛と恵みによって、自らを祝福の住まいのために準備している人々のために、住まいを用意しに行かれた。」（同上 250）

主がわたしたちを助けて下さり、わたしたちがこの特権をまことに感謝する人々のうちにいることができますように！

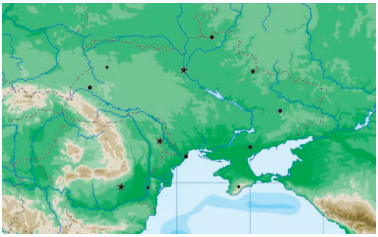
世界総会安息日学校支部

安息日 2021 年 10 月 2 日

第一安息日献金

ウクライナ、オデッサにおける礼拝堂のために

オデッサはウクライナの第四の都市であり、人口 1,017,699 人です (2020 年)。黒海の北西海岸に面し、ヨーロッパ、中東、アジアの交差路になっています。この多文化の交通拠点はリゾート地、海岸、レクリエーションの複合施設で有名です。オデッサは特に夏季に、多くの観光客を魅了しています。海港都市はまた国家の主たる科学的また教育的中心でもあり、ウクライナや海外から学生が集まります。



歴史的にオデッサの主要な宗教はオーソドックスでしたが、他のクリスチャン教派や、ユダヤ教もまた数多くあります。この都市には福音を宣布する機会が豊かにあることは非常に明らかです。好ましい時期は終わりを迎えようとしており、非常に多くの働きが魂の救いのためになされなければなりません！

オデッサに改革のメッセージは進展しつつあります。そして求道者の数は増えています。真理を探る教会員や人々がいて、2018 年の秋には、さらに伝道の働きを進めるために牧師とその家族がオデッサに引っ越してきました。しかし、残念なことに、わたしたちにはまだ礼拝のための恒久的な場所がありません。

親愛なる兄弟の皆さん、皆さんのルカによる福音書 10:2 のお祈りをもって、この都市における永遠の福音の宣布を支えてくださるようお願いいたします。主の僕はまたオデッサを考えたときに特別に関係のある折にかなったメッセージをまた与えています。「絶えず人々の出入りがある場所で特別な働きがなされなければならない。キリストはカペナウムで多くの時間労された。なぜなら、ここは旅行者が絶えず行き来し、多くの人がしばしば滞在する場所だったからである」(伝道 585)。「光がもたらされる、『前進せよ、新しい領域へ入りなさい。そうすれば仕える天使があなたと共に行くであろう。…礼拝のつつましい家という記念塔を建て、名目上の諸教会から追い出された主の小さい群れのために安全な場所を確保しなさい』」(手紙と原稿 14 巻手紙 260, 1899 年)。

わたしたちは多くの人々の救いのために、神がオデッサに真理の灯台を建設することを望んでおられると信じます。そこで、わたしたちの都市に祈りの家を建設するため、皆さんの惜しみない献金をお願いいたします。皆さんと主に献金に先立ってお礼申し上げます。そして主が皆さんを豊かに祝福してくださいますように、お祈りいたします。

オデッサから皆さんの兄弟姉妹より

パウロの改心と召し

暗唱聖句：「それは、彼らの目を開き、彼らをやみから光へ、悪魔の支配から神のみもとへ帰らせ、また、彼らが罪のゆるしを得…るためである。」(使徒行伝 26:18 上句)
「キリストの教会の最も厳しく容赦ない迫害者から、最も有能な擁護者かつ最も成功した福音の先触れが生まれたのであった。」(パウロの生涯からのスケッチ 9)

推奨文献：　患難から栄光へ上 117–131

日曜日　*9 月 26 日*

1.　熱狂的な怒りのうちに

a.　タルソのサウロとはだれでしたか。そして彼はどのような誤った任務を熱心に遂行していましたか (ピリピ 3:5, 6; 使徒行伝 26:4, 5, 9–11)。

「〔サウロは〕ナザレのイエスもその使命も個人的な知識はなかった。しかし、彼らはラビたちの野心的な希望を果たすにはほど遠い者に対する彼らのあざけりと憎しみをすぐに受け入れた。そしてキリストの死後、彼はキリストに従う者たちを排斥され憎まれた教派として迫害する祭司や役人たちに熱心加わった。」(パウロの生涯からのスケッチ 10)

b.　しかしながら、どの光景がサウロの心を悩ませましたか (使徒行伝 6:8–12; 7:57–60)。

「ステパノに下された法律に基づく宣告はなかった。しかし、ローマ当局はこの判決を調査をしないよう多額のわいろを受けていた。サウロはステパノの裁判と死の光景に激しい熱意を吹き込まれていたようである。彼はステパノが人から蔑まれていたちょうどそのとき、神からは尊ばれていたという自分自身のひそかな確信に腹を立てていたようであった。」(同上 20)

2.　突然に捕らえられた

a.　サウロのダマスコへ向かう展望と目的を説明しなさい（使徒行伝 9:1, 2）。

「サウロはユダヤ人から信徒たちを迫害する熱心さにおいて大いに評価されていた。ステパノの死後、彼はその機会に果たした役割が考慮され、サンヒドリンの議員として選ばれた。この学識があり熱心なラビは、神の御子に対するサタンの反逆を実行するためにその手中にある強力な器であった。」（パウロの生涯からのスケッチ 20）

「サウロは自分自身の働きのためにダマスコへ向かうところであった。しかし、彼は行くところでキリストを信じるすべての者を探し出すことによって、二重の目的を成し遂げようと決意した。この目的のために、彼は会堂で読むための大祭司からの書簡を得ていた。その書簡により、パウロはイエスの信徒だと嫌疑をかけられているすべての者を裁判にかけ罰するために使命者によってエルサレムへ送るべく、彼らをとらえる権利が与えられていた。」（同上 21）

b.　何がサウロの怒りを突然に止めさせましたか。そして彼は恐れのうちにどのように反応しましたか（使徒行伝 9:3–5（前句））。

c.　サウロは何を発見して衝撃を受けましたか（使徒行伝 9:5（中句））。

「パウロにとって、自分は神に仕えていると思いながら真理に逆らってずっと自分の力を用いていた時、実はキリストを迫害していたのだと知ることは、なんという屈辱だったことだろう。救い主がその栄光の輝かしい光の中で、ご自分をパウロに表された時、彼は自分のやった事と自分自身への嫌悪で満たされた。キリストの栄光の力は彼を滅ぼしてしまったかもしれなかったが、彼は望みを抱く捕らわれ人であった。彼がののしってきたお方の臨在の輝きよって、彼は肉体的に盲目にされたが、それは霊的視力が持てるようになり、彼の理解力を麻痺させ、鈍くしていた昏睡状態から目覚めさせるためであった。呼び覚まされた彼の良心は、今しきりに自分を責めた。自分の仕事に対する熱心さ、神の使命者たちを通して彼に輝いていた光に対する真面目な抵抗が、今彼の魂に非難を浴びせ〔た〕。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1058）

3.　　夢から目覚めたように

a.　イエスはご自分の結びの言葉をもって、何を伝えておられたのですか（使徒行伝 9:5（下句））。

「救い主がステパノを用いてサウロに語っておられた。ステパノのはっきりした論証は反駁の余地のないものであった。このユダヤ人の学者は、キリストの栄光の光を反映している殉教者の顔を見た。それはちょうど『天使の顔のように』見えたのである（使徒行伝 6:15）。彼は敵に対するステパノの忍耐強さとゆるしを目撃した。サウロはまた、自分が責め苦しめた多くのものが示した不屈の精神と、よろこんで耐え忍ぶ姿を見た。彼はあるものたちが信仰のために、いのちさえよろこんで捨てるのを見たのである。

これらすべてのことが声を大にしてサウロの心を動かし、時には、イエスこそ約束のメシヤだという、抗しがたい確信が彼の心を突き通した。そのようなとき彼は幾夜もこの確信に抵抗してもがいた。」（患難から栄光へ上巻 121, 122）

「福音の進展を止めようとするすべての努力は、その反対者にとって損害と苦しみという結果に終わる。彼の心自身が遅かれ早かれ自分を責めるようになる。彼は実に、自分がとげを蹴ってきたことを見出すようになるのである。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1911 年 3 月 16 日）

b.　サウロは、自分が悪をなしてきたことがわかったとき、どのように反応しましたか（使徒行伝 9:6（上句））。

「彼は苦々しい自責の念でいっぱいになった。彼はもはや自分を義人として見ることなく、思いにおいて、精神において、行いにおいて、律法による有罪宣告を受けた。彼が今まで迫害してきた救い主なしでは自分は完全に失われた罪びとであることが分かった。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1058）

c.　サウロの経験に何が続きましたか（使徒行伝 9:6（後句），9）

「盲目であった間は、彼は日夜、沈思黙考の時を持ち、全く無力で望みのない自分を許し、義とすることのできる唯一のお方であるキリストに自らを委ねた。」（同上）

4. ダマスコにおける劇的な変化

a. キリストはどのようにダマスコにおいてサウロを祝福されましたか(使徒行伝 9:10, 15–18; 22:13–16)。

「〔サウロ〕がその都市に入ったとき、それは彼の考えていたことからはなんと違ったことであろう!大祭司から自分に授けられていた栄誉と、また彼が信徒たちをエルサレムへ連れていき、彼らがそこで有罪宣告を受け、容赦ない刑罰を受けるよう彼らを探し出すのに表した非常な熱心さと徹底さのゆえに、彼が到着するときには、虚飾と称賛を持って迎えられるだろうと期待して、誇り高い満足感をいだいてダマスコに近づいていた。…彼は一人もクリスチャンを逃すまいと心に決めて警戒していた。彼は男女子供と彼らに関わる人々の信仰を問いただし、また彼は居住者をとらえる権力をもって家々に押し入り、囚人として彼らをエルサレムへ送るのであった。

しかし、彼が期待してきたことから光景はなんと変わったことであろう!権力を行使し、誉を受ける代わりに、彼自身が事実上の囚人となり、視覚を奪われ、自分の同伴者の導きに頼った。無力で、悔恨にさいなまれながら、彼は自分自身が死の宣告の下にいることを感じた。…

彼はまったく人間の同情から切り離されたかのように見えた。そして彼は反省し、徹底的に砕かれ悔いた霊をもって祈った。

この三日間は、目の見えない良心を打たれたこのユダヤ人にとって、三年のようであった。」(パウロの生涯からのスケッチ 25, 27)

「サウロの信仰は、ダマスコにあるユダの家での断食と祈りの三日のあいだ厳しく試された。彼はまったく目が見えず、自分に何が要求されているのかに関して完全な思いの闇の中にいた。…彼は自分の不確かさと悲嘆のうちに、神に真剣に叫び求めた。」(同上 29)

「サウロは弟子たちから学ぶ者となる。彼は律法の光のうちに自分自身が罪人である子をと悟る。彼はイエス、すなわち自分の無知のうちに詐欺師だと考えていたお方がアダムの時代から神の民の宗教の創始者であり基礎であられ、また信仰の完成者であられることを、今やその啓発された視力にはっきりと認める。…

道徳律の光によって、それを彼は自ら熱心に守っていると信じてきたが、サウロは自分自身が罪人の中の罪人であることを認めた。彼は悔い改め、すなわち罪に対して死に、神の律法に従順な者となり、自分の救い主としてイエス・キリストを信じる信仰を働かせて、バプテスマを受け、イエスをかつて非難したのと同じ真剣さと熱心さをもって宣布した。」(同上 30, 31)

「この素晴らしいサウロの改心は、人の思いと心に確信を得させるキリストの奇跡的な力を驚くべき方法で示している。」(同上 27)

「迫害者サウロが改心して、異邦人への使徒パウロとなった。」(国と指導者下巻 301)

木曜日 *9月30日*

5. 神聖な任務

a. サウロ―ヘブル語でその名の意味が「求められたもの、祈り求めたもの」―が後に、ローマ市民として「パウロ」、すなわち「小さい」あるいは「いやしい」を意味する名をもってとして知られたが、彼に与えられた明確な召しを説明しなさい（使徒行伝 26:16–18）。

b. 彼はどの中心的な主題を強調しましたか。それはなぜですか（ガラテヤ 1:3）。

「『恵みが、あなたがたにあるように』（エペソ 1:2）。わたしたちはすべてを神の無償の賜物に負っている。契約における恵みがわたしたちの養子縁組を定めたのである。救い主にある恵みが、わたしたちの贖い、わたしたちの再生、そしてわたしたちのキリストとの共同相続への昇進をもたらしたのである。わたしたちが初めに神を愛したから、神がわたしたちを愛してくださるのではない。……わたしたちの不服従によって、わたしたちは神のご不興と譴責に値する者であったにもかかわらず、なおこのお方は、わたしたちが敵の力と組み合うままに、わたしたちをお捨てになるようなことはなかった。天の御使たちが、わたしたちの戦いをわたしたちのために戦い、彼らと協力することによって、わたしたちは悪の力に対して、勝利することができるのである。

わたしたちは、もし堕落しなかったならば、この『恵み』という言葉の意味を知ることは決してなかったのである。神はご自分の奉仕をなし、ご自分のすべてのご命令に従順な罪のない御使たちを愛される。しかし、神は彼らに恵みをお与えになることはない。これらの天の存在者は、恵みというのが何かを少しも知らない。彼らはそれを必要としたことがなかった。なぜなら、彼らは罪を犯したことがないからである。恵みとは、その価値のない人間に示される神の特質である。わたしたちが自分でそれを捜し求めたのではなくわたしたちを捜し出すためにそれが送られたのである。神はこの恵みを、それに飢え乾くすべての人にお与えになることを喜ばれる。それは、わたしたちに価値があるからではなく、わたしたちがまったく価値がないからである。わたしたちの必要が、この賜物を受けるという保証をわたしたちに与える資格である。

神は恵みをお与えになろうとすべての罪に病んだ魂が要求するのを待っておられる。それは、すべての霊的な病を癒す。それによって、心はすべての汚れから清められる。それは、信じるすべての人にとって、福音の治療法である。」（天国で 34）

金曜日 *10月1日*

個人的な復習問題

1. **主はどのようにサウロに良心のとげを送られたように、わたしにも送られるかもしれませんか。**
2. **わたしたちがそれらの良心のとげを受け入れるとき、あるいは拒むときに何が起こりますか。**
3. **サウロの初期の経験から、主はわたしがどのような益を受けることを望んでおられますか。**
4. **なぜサウロの将来にとって、三日間の盲目がそれほど重要不可欠だったのですか。**
5. **パウロのメッセージの中心的な主題によって、わたしはどのように励ましを受けることができますか。**

ガラテヤにある諸教会へ

暗唱聖句：「キリストは、わたしたちの父なる神の御旨に従い、わたしたちを今の悪の世から救い出そうとして、ご自身をわたしたちの罪のためにささげられたのである。栄光が世々限りなく神にあるように、アァメン。」（ガラテヤ 1:4, 5）

「〔パウロ〕の言葉を聞いた人々は、彼がイエスと共にいたことを知った。天来の力をさずけられて、彼は霊によって霊のことを解釈し、サタンの拠点を打ちくだくことができた。彼が神のひとり子イエスの犠牲に表されている神の愛を示すと、人々の心はくだかれて、多くの者が『わたしは救われるために、何をすべきでしょうか』という気持ちにまで導かれた。」（患難から栄光へ上巻 224）

推奨文献：　患難から栄光へ上巻 130–135、下巻 70, 71

日曜日　*10 月 3 日*

1.　罪からの救出

a.　パウロはどのようにガラテヤ人に自分の手紙を紹介しました（ガラテヤ 1:1–5）。

「パウロとその仲間の働き人たちは、キリストの贖罪の犠牲を信じる信仰による義についての教理を宣べ伝えた。彼らは、キリストが堕落した人類の救いようのない状態をご覧になり、みずから神の律法に従う生活をなさって、不従順の罰をお受けになることにより、彼らをあがなうために来られたかたであると教えた。（患難から栄光へ上巻 223, 224）

「ご自分の命を世の命のためにお与えになることによって、キリストは罪が造った淵に橋をかけられ、罪にのろわれた地を天の宇宙の一部としてつないでくださった。神はこの世をご自分の恵みの大いなる働きの舞台にするために選ばれた。その住民の反逆のゆえに有罪の判決が地の上に下ろうとしているとき、また神の律法の違反のゆえに怒りの雲がつのっていたときに、神秘的な声が天において聞かれた、『見よ、わたしはまいります。……わが神よ、わたしはみこころを行う』ために（詩篇 40:7, 8）。わたしたちの身代わりであり、保証人であられるお方は、ご自分が永遠の命という巨額ではかり知ることのできない寄贈物を携えて来られたことを宣言しながら、天から来られた。」（この日を神と共に 84）

2.　　娯楽、好色、中傷

a.　ガラテヤで、パウロを憂慮させるどのようなことが起こりましたか（ガラテヤ 1:6, 7）。

「パウロは、コリントに滞在していたときに、すでに設立されていた教会のいくつかについて、深く憂慮するところがあった。エルサレムの信者たちの中から起こった偽教師の影響によって、分裂、異端、肉欲主義が、急速にガラテヤの信者たちの間に広まっていた。これらの偽教師たちは、福音の真理にユダヤの伝承を混ぜ合わせていた。彼らは、エルサレム会議の決定を無視して、異邦人の改心者たちに礼典律を守るように勧めた。

事態は非常に深刻であった。すでに入り込んできた害悪は、急速にガラテヤの諸教会を破壊しようとしていた。

パウロは、彼が忠実に福音の原則を教えた人々が、このように公然と背教するのに心を痛め、不安を 感じた。彼は、直ちに、惑わされた信者たちに手紙を送って、彼らが受けいれた偽りの教えを暴露し、非常に厳しく、信仰から離れた人々を譴責した。」（患難から栄光へ下巻 67, 68）

b.　何が原因でそのようなことが起こるかもしれませんか（箴言 16:28; アモス書 2:4）。

「ほとんどの教会に、生まれながらのユダヤ人である教会員が何人かいた。ユダヤ人の教師たちはそれらの改宗者たちに接近しやすいことがわかって、彼らを通して教会の中に足がかりを得た。パウロによって教えられた教理を覆すことは、聖書の議論によっては不可能であった。そこで彼らは、彼の影響力を妨害し、彼の権威を弱めるために最も非道な手段に訴えた。パウロはイエスの弟子ではなかったし、イエスから任命を受けなかったにもかかわらず、ペテロ、ヤコブその他の使徒たちが考えていることとは正反対の教義をあたえて教えたのだと彼らは述べ立てた。このようにしてユダヤ主義の使者たちは、福音の教師たちから多くのクリスチャン改宗者たちを遠ざけることに成功した。言い分を立証して、彼らは救いに欠かせないものとして礼典律の遵守に立ち返らせるように誘った。キリストにある信仰、そして十戒の律法に服することは、さほど重要ではないものとみなされた。分裂、異端、感覚主義が急速にガラテヤの信者たちの間に勢力を増していった。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1108）

3.　　神の方法に従う

a.　なぜわたしたちは皆、ガラテヤ人に宣言せざるを得なかったパウロの強い言葉に注意を払うべきなのですか（ガラテヤ人への手紙 1:8, 9）。

「多くの人々は、かつて神の律法を自分たち自身の律法と取り換えたのと同じ方法で、自分自身の福音を考案してきた。」（レビュー・アンド・ヘラルド 1901 年 9 月 3 日）

「宗教の外的形式を心と生活の清めに代用することは、これらのユダヤの教師たちの時代と同様に今でもなお、改心していない人々に歓迎されている。今日も当時と同様に、偽の霊的指導者がいて、多くの人々が、彼らの教えに熱心に耳を傾けている。サタンは巧妙に働いて、キリストを信じ神の律法を守ることによって与えられる救いの希望から、人々の心をそらそうとしている。大敵サタンは、各時代においてて、彼が欺こうとする相手の偏見や好みに、彼の誘惑を適合させる。彼は、使徒時代においては、ユダヤ人を、礼典律を尊重してキリストを拒否するように導いた。彼は現代においては、多くの自称クリスチャンたちに、キリストを尊ぶという口実の下に、道徳律を軽視させ、その戒めを犯しても罰はないと教えさせるのである。神のしもべは、信仰を曲解するこれらの人々に、しっかりした断固たる態度で立ち向かい、真理のことばによって、恐れることなく彼らの誤りを暴露しなければならない。」（患難から栄光へ下巻 71）

b.　神の僕としてのパウロの立場を説明しなさい。またそれはどのように祝福の山でのキリストの言葉を連想させましたか（ガラテヤ人 1:10; ルカ 6:26, 22, 23（上句））。

「神の真理は世に人気があったことはない。生来の心は真理をいつも嫌っている。わたしたちがカルバリーの人に従う者となるためには、世の愛、心の誇り、そして偶像礼拝へ導く傾向のあるすべてのものを捨てなければならないことを、わたしは神に感謝する。真理に従う人々は、決して世から愛されたり、尊ばれたりすることはない。神聖な教師の唇からは、このお方がへりくだりのうちに人の子らのうちを歩まれたとき、次の言葉が聞かれた。だれでもわたしの弟子となりたい者は、自分の十字架を負って、わたしに従ってきなさい。しかり、わたしたちの模範なるお方に従いなさい。このお方は人の賞賛や誉をお求めになっただろうか。ああ、そうではない！そうであれば、わたしたちは世俗的な人々の誉や賞賛をもとめるのであろうか。神に対する愛を持たない人々が、神の子らを愛することはない。」（教会への証 2 巻 491）

4. 岩の上に基礎を置く

a. イエスを信じるパウロの信仰はどのように確立されましたか。またわたしたちは使徒のように目に見える形でキリストにお会いすることはないかもしれませんが、何に基づいて、わたしたちの信仰は固く据えられるべきですか（ガラテヤ人 1:11, 12; ローマ 16:25–27）。

「パウロがこのように厳粛で積極的な方法でガラテヤびとに警告と勧告を発したのは、神ご自身から受けた指示によるものであった。彼は、ためらいや疑いではなくて、堅い確信と疑う余地のない知識をもって書いた。」（患難から栄光へ下巻 70）

「すべての世界を出現させた創造のエネルギーは、神のみ言葉のうちにある。神のみ言葉は能力を与え、生命を生ぜしめる。神のご命令の一つ一つは約束であって、意志がこれに同意し、魂がこれを受け入れるときに、そこには同時に限りない神の生命がもたらされる。それは人の性質を一変させ、魂を神のみかたちに再創造する。

このようにして与えられた生命は、また同じようにして維持される。人は、『神の口から出る一つ一つの言』によって生きなければならない（マタイ 4:4）。」（教育 135, 136）

b. パウロはなぜ自分の召しに含まれていた生涯を変える変化を強調したのですか（ガラテヤ 1:1, 13–16）。

「パウロは、ガラテヤの兄弟たちの信任を回復しようとして、キリストの使徒としての自分の身分について、巧みに弁明した。彼は、自分が使徒として立てられたのは、「人々からでもなく、人によってでもなく、イエス・キリストと彼を死人の中からよみがえらせた父なる神とによって」であると言った。彼は、人からではなくて、天の最高の権威者から任命を受けたのである。そして彼の地位は、エルサレム会議によって認められ、パウロは、異邦人間でのあらゆる働きにおいて、その決定に従ったのである。

「パウロは、ガラテヤの兄弟たちの信任を回復しようとして、キリストの使徒としての自分の身分について、巧みに弁明した。彼は、自分が使徒として立てられたのは、『人々からでもなく、人によってでもなく、イエス・キリストと彼を死人の中からよみがえらせた父なる神とによって』であると言った。彼は、人からではなくて、天の最高の権威者から任命を受けたのである。そして彼の地位は、エルサレム会議によって認められ、パウロは、異邦人間でのあらゆる働きにおいて、その決定に従ったのである。パウロがこのようにして、彼の使徒としての地位を疑った人々に、自分が『あの大使徒たちにいささかも劣ってはいない』という証拠を示したのは、自己を高めるためではなくて、神の恵みを賛美するためであった（コリント第二 11:5）。彼の召命と彼の働きを軽視しようとした人々は、キリストに反抗 していた。キリストの恵みと力が、パウロによってあらわれたのである。パウロは、敵の反対が起こったために、やむを得ず、自分の地位と権威を維持するために、断固とした態度をとらなければならなかった。」（患難から栄光へ下巻 71, 72）

木曜日 *10月7日*

5.　　ただ神とだけ

a.　パウロの改心後、まもなく神がどのように導かれたかを説明しなさい。そしてその恩恵からわたしたちは何を学ぶことができますか（ガラテヤ 1:17; ヨブ記 22:21）。

「パウロは驚いている人々に『悔い改めて神に立ち帰り、悔改めにふさわしいわざを行うようにと』説き続けて（使徒行伝 26:20）、『ますます力が加わり、このイエスがキリストであることを論証して、ダマスコに住むユダヤ人たちを言い伏せた』。しかし多くの人々は彼の説教に応じることを拒み、心をかたくなにした。やがて、パウロの改心に対する彼らの驚きは、イエスに示したような憎しみに変わった。

反対がますます激しくなったので、パウロはダマスコで働きを続けることができなくなった。天よりの使者がしばらくそこを去るようにと彼に命じたので、彼は「アラビヤに出て行っ」て、そこで安全なかくれ家を見つけた（ガラテヤ 1:17）。

パウロは砂漠のさびしい所で、静かな研究と瞑想の時を十分に得た。彼は静かに自分の過去をふりかえり、悔い改めの確かなわざをなした。彼は真心から神を求めて、彼の悔い改めが受け入れられ、罪がゆるされたことを確かめるまで気を安めなかった。彼はこれから伝道するにあたって、イエスが彼と共にいてくださるという確証を得たいと切望した。彼はこれまで彼の生活を形造っていた偏見や言い伝えを一切捨てて、真理の源なる神の教えを受けた。イエスはパウロと交わり、彼の信仰を固め、知恵と恵みを豊かにお与えになった。

人の心が神の心と交わり、限りあるものが無限の創造主と交わるとき、身体や精神や魂に及ぼすその影響は計り知れない。そのような交わりの中に最高の教育がある。それが神ご自身の教育方法である。」（患難から栄光へ上巻 132, 133）

金曜日 *10月8日*

個人的な復習問題

1. **なぜすべての人にとってキリストの使命の主たる目的を知ることが重要なのですか。**
2. **ガラテヤでパウロが直面した種類の取り扱いは、どのように今日しばしばくり返されていますか。**
3. **何がしばしば、神の民の間の批判の背景にある隠れた動機ですか。**
4. **キリストの使徒として、パウロはなぜ、またどのように自分の権威を擁護しましたか。**
5. **わたしはどのように神とだけの静かな時間をより多く持つよう取り計らうことができますか。**

アンテオケに進む

暗唱聖句：「すると、主がわたしに言われた、『行きなさい。わたしが、あなたを遠く異邦の民へつかわすのだ』」。（使徒行伝 22:21）

「どれほどの人々が罪人の危険を悟っているかのように行動するであろうか。どれほどの人が危険にいるとわかっている人々を連れて、祈りのうちに神に提示し、彼らを救ってくださいと神に嘆願するであろうか。」（教会への証 6 巻 413）

推奨文献：　患難から栄光へ上巻 135–139、166–171

日曜日　*10 月 10 日*

1.　彼の改心にあずかることを熱望する

a.　パウロはダマスコへ戻るときに、何を経験しましたか（使徒行伝 9:22–25）。

「ユダヤ人ば〔パウロ〕の賢明な議論に対抗することができなかった。そこで彼らは、衰え行く運動のために残された唯一の議論である暴力によって、彼の声を沈黙させようと相談し合った。彼らはパウロを暗殺することに決めた。使徒パウロは、彼らの計画を知った、町の門には昼夜油断なく見張りがついて、パウロの脱出を防いでいた。弟子たちは心配のあまり、祈りのうちに神に近づいた。彼らは夜ほとんど寝る事もしないで、このえらばれた使徒の脱出を助けるために、あれこれと方法を考えた。ついに彼らは、夜パウロをかごに入れて窓からつりおろし、塀（へい）の外側におろす計画を考えついた。このような屈辱的な方法でパウロはダマスコから脱出した。」（生き残る人々 316）

b.　彼は次にどこへ行きましたか。それはなぜでしたか（ガラテヤ 1:18）。

「さてパウロは、使徒たち特にペテロと知り合いになりたい希望をもってエルサレムへ行った。この地上でキリストとともに生活し、祈り、語り合ったガリラヤの漁師たちに彼は会いたかったのだ。」（同上）

2.　　奇妙な受け入れ

a.　パウロが長年待望していた弟子たちへの引き合わせがどのようなものであったかを述べなさい（使徒行伝 9:26–28）。

「〔パウロ〕は自分の兄弟たち、弟子たちに加わろうとした。しかし、彼らが自分を仲間のひとりとして受け入れようとしないことがわかったとき彼の悲しみと失望は大きかった。彼らは彼のかつての迫害を覚えており、彼らを欺き、滅ぼすために芝居をしているのではないかと疑った。たしかに、彼らは彼のすばらしい改心のことを聞いていた。しかし、彼がすぐにアラビヤに退いたため、彼らはそれ以上彼についてはっきりしたことを聞いたことがなかった。彼らはパウロの大変化のうわさを信じていなかった。

バルナバは、キリストのみ事業を支え、貧しい人々の窮乏を緩和するために惜しみなく自分の資金を捧げていたが、パウロが信徒たちに対立していたとき、パウロをすでに知っていた。彼は今、前面に出て、パウロの奇跡的な改心とその時以来の経験について彼の証を聞き、あらためて彼を知るようになった。彼はパウロを完全に信じ、受け入れ、彼の手を取って使徒たちの前に連れていった。彼は自分が聞いたパウロの経験、すなわち、パウロがダマスコへ向かう途中、イエスが個人的に彼に現れられたこと、イエスが彼に語られたこと、パウロの視力がアナニヤの祈りにこたえて回復され、それ以降、都市の会堂でイエスが神の御子であると言い続けてきたことを述べた。

使徒たちはもはやためらわなかった。彼らは神に抵抗することはできなかった。ペテロ、ヤコブが、その時エルサレムにいた使徒は彼らだけであったが、かつては自分たちの信仰の激しい迫害者であった者に仲間の右の手を差し出した。そして彼は今やかつて恐れられ、さけられていたほどに愛され、尊敬されたのであった。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1058, 1059）

b.　パウロは、エルサレムにいる他の人々から、どのように受け入れられてきましたか（使徒行伝 9:29）。

「パウロは、これまで非常によく知っていたこれらのイスラエルの教師たちが、以前の彼と同様に誠実で正直だということを確信していた。しかし彼は、ユダヤ人の兄弟たちの精神を見込み違いしていたために、彼らを性急に改心させようとして、みじめな失望に陥るはめになった。……パウロの心は悲しみに満たされた。彼は、そうすることでだれかに真理を理解させることができれば、自分の命をよろこんで捨てたであろう。」（患難から栄光へ上巻 137, 138）

3.　　動くべき時

a.　エルサレムで、主は幻のうちにパウロに何を告げられましたか（使徒行伝 22:17–21）。

「パウロは、……自分の信仰の真理を強情なユダヤ人に信じさせないうちは、エルサレムを離れることをちゅうちょした。たとえ真理のために、自分の生命を犠牲にするようなことがあっても、ステパノの死に対して負わねばない恐るべき責任がそれで解消されるだけだと彼は思った。……だが、これに対する応答は前よりも断固たるものだった。『行きなさい、わたしが、あなたを遠く異邦の民へつかわすのだ』。

兄弟たちは、パウロの異象と彼に対する神の守りを知ると、パウロのために心配が大きくなった。彼らは、パウロが異邦人に真理を伝えるために神から選ばれた器である事を認めた。パウロがユダヤ人から暗殺されるおそれがあったので、彼らは、パウロをエルサレムからひそかに脱出させることをいそいだ。」（生き残る人々 319, 320）

b.　この状況の結果としてパウロは、弟子たちの間における彼の時間がいかに限られていたかについて、何と述べましたか（ガラテヤ人への手紙 1:19, 20, 22）。

c.　神はパウロのためにどのように備えてくださいましたか。また一方では、どのようにまたユダヤ、ガリラヤ、またサマリヤが成長するために、どのように道を平たんにしてくださいましたか（ガラテヤ人への手紙 1:21; 使徒行伝 9:30, 31）。

d.　人の集まる商業的なシリヤの大都市であったアンテオケの教会の起こりと進展の歴史を述べなさい（使徒行伝 11:19–26（上句））。

「人口が多いアンテオケの町は、パウロにとってすばらしい伝道地であった。彼の学識、知恵、熱意は、その文化都市の住民や、そこをたびたびおとずれる者たちに、力強い感化を及ぼした。彼は、バルナバが必要としていたとおりの助けとなった。」（患難から栄光へ上巻 167, 168）

「才能があり献身した働き人たちが、公衆伝道の働きを導くために、人口が集中している重要な地方に配置されるのは神の命令による。一方、これらの都市に住む教会員たちが、神から与えられた才能を救霊事業に用いるのも、神が意図されたことである。」（同上 170）

4.　　アンテオケにある教会

a.　アンテオケの教会については、どのような特色がありましたか（使徒行伝 11:26（下句））。

「弟子たちがはじめてクリスチャンと呼ばれたのは、アンテオケにおいてであった。彼らの説教や教えや話題の中心がキリストであったので、この名がつけられたのである。彼らは、キリストが公生涯を送っておられたころ、キリストと個人的に交わる恵みを受けた日々の出来事を、繰り返し詳しく語った。彼らは疲れを 知らずに、キリストの教えやいやしの奇跡について語った。また、ゲッセマネの園でのキリストの苦悩や、裏切り、裁判や処刑、敵たちから負わされた侮辱や責め苦に耐えられたキリストの忍耐 と謙遜、また、彼を迫害した人々のために祈られた神々しいまでのあわれみについて、弟子たちは唇をふるわせ、目にいっぱい涙をためて語った。キリストの復活、昇天、また堕落した人類の仲保者としての天における働きなどは、弟子たちが喜んで力説する話題であった。彼らはキリストを説き、キリストを通して神に祈りをささげていたのだから、異教徒が彼らをクリスチャンと呼んだのも当然であろう。

弟子たちにクリスチャンという名前をお与えになったのは神であった。これはキリストにつながるすべての者に与えられる、栄誉ある名前である。」（患難から栄光へ 上巻 168）

b.　聖書は、「クリスチャン」という名が、栄誉ある記章となるべきことを、どのように明らかにしていますか（ヤコブ 2:7; ペテロ 4:16, 14）。

c.　大多数の人が不信者である世に住みながら、わたしたちはどのように初期の弟子たちから鼓舞されることができますか（使徒行伝 4:13）。

「〔アンテオケにいる信徒たち〕は、永遠の価値には全くむとんちゃくに見える人々の中に生活していたが、心の正直な人々の関心を引いて、自分たちの愛し仕えている主について、積極的なあかしをたてようと努力した。彼らは、そのささやかな働きをとおして、いのちのことばを効果的なものとする、聖霊の力によりたのむことを学んだ。こうして彼らは、生活のさまざまな歩みをとおして、日ごとにキリストに対する信仰をあかししていった。」（同上 170）

木曜日 *10月14日*

5.　　神に栄光を帰す

a.　ユダヤにある諸教会が受けたパウロの働きについての報告から、わたしたちはどのように励まされ、動機を与えられますか（ガラテヤ 1:23, 24）。

「使徒パウロは初期教会について、『わたしのことで、神をほめたたえた』と言うことができた（ガラテヤ 1:24）。わたしたちは同じ事がわたしたちについても言われるように生きようと奮闘しないであろうか。主は心を尽くしてご自分を探し求める人々に道と手段を備えて下さる。このお方はわたしたちが、働きの伝道地を整えたり、これらの伝道地が成功をもって占められるよう道を整えることに示される神の指導を認めるよう望んでおられる。

牧師や伝道者は真理を確信している人々と共に熱心に祈る時間をもっと多く持ちなさい。キリストはいつもあなたと共におられることを覚えていなさい。主はいつも誠実で謙遜な働き人を強め、励ますために、もっとも尊いご自分の恵みを提示しようと用意しておられる。そうであれば、神があなたの上に輝くようにしてくださった光を他の人々に反射しなさい。こうする人々は主に最も尊い捧げものをもたらすのである。救いの良き知らせを担う人々の心は賛美の霊をもってあかあかと輝く。」（教会への証 6 巻 413）

「今日、地上における神のみわざは、聖書の真理の生きた代表者を必要としている。按手礼を受けた牧師だけが、大都市に警告を与えるにふさわしいのではない。神は、まだ警告されていない都市の必要を考慮するようにと、牧師ばかりでなく、医者、看護婦、文書伝道者、婦人伝道者など、さまざまな才能を持つ献身的な信者で、神のみことばについての知識を持ち、神の恵みの力を知っている人々を求めておられる。時は速やかに過ぎて行くが、まだしなければならない事がたくさんある。現在ある機会がうまく用いられるように、すべての活動を進めていかなければならない。」（患難から栄光へ上巻 170, 171）

金曜日 *10月15日*

個人的な復習問題

1. **わたしはパウロが次々と場所を移動した理由から何を学ぶべきですか。**
2. **わたしの感化の領域において、どのようにもっとパウロに対するバルナバのようになることができますか。**
3. **わたしの地元の教会がアンテオケの教会のように輝くため、わたしはどのように助けることができますか。**
4. **ガラテヤ人への手紙 1:11–24 にあるパウロの物語を読むとき、いかに彼が実際に苦しんだすべてのことについてつぶやいたり、文句を言わなかったことから何を認めるべきですか。**
5. **わたしはもっと完全に神に栄光を帰すことを妨げるどんなことを、許してしまっているかもしれませんか。**

調和して成長する

暗唱聖句：「そこで、使徒たちや長老たちが、この問題について審議するために集まった。」（使徒行伝 15:6）

「ユダヤ人と異邦人の間を分ける真ん中の壁は倒壊した。彼らはもはや別の部屋にいるのではなかった。不信心の異邦人が信じるユダヤ人と一つになった。異邦人はユダヤ人をその元々の立場から押し出したのではなかった。そうではなく、彼らの祝福に彼らと共にあずかる者となった。こうしてキリストの使命が成就した。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1887 年 8 月 25 日）

推奨文献：　患難から栄光へ上巻 172–177, 203–215

日曜日　*10 月 17 日*

1.　使命をもって遣わされた

a.　パウロとバルナバがアンテオケで過ごした一年後、地元の教会はどのように正式に彼らの召しを認め、新しい伝道地へ入るよう彼らを促しましたか（使徒行伝 13:1–3）。このことから、わたしたちは何を教わるべきですか。

「神は、パウロとバルナバが、アンテオケの信者たちといっしょにいたその年のあいだ中、彼らの働きを豊かに祝福された。しかしふたりとも、まだ正式には、福音の働きに任命されていなかった。……

これらふたりの使徒たちは、異教徒の地域に宣教師としてつかわされる前に、断食して祈り、按手によって厳粛に神にささげられた。」（患難から栄光へ上巻 172, 173）

「次々と場所を移して訪問しなければならない。次々と教会が建てられなければならない。真理の側に自分の立場をおく人々は教会の中で組織化されるべきである。その後、牧師は他の等しく重要な伝道地へと移っていくべきである。

教会が組織されたらすぐに、牧師は教会員たちを働きにつかせなさい。新しく形成された諸教会は教育される必要がある。牧師は自分の時間を説教よりももっと教育に捧げるべきである。彼はどのように真理の知識を広めるかを民に教えるべきである。」（ﾊﾟｼﾌｨｯｸ・ﾕﾆｵﾝ・ﾚｺｰﾀﾞｰ 1902 年 4 月 24 日）

2.　伝えることと相談すること

a.　パウロとバルナバは自分たちの働きについて、何を証することができましたか（使徒行伝 14:27）。わたしたちは今日、どのように同様の経験を求めるべきですか（ゼカリヤ書 10:1）。

「東西南北における新しい伝道地を拓くために、断固とした努力が払われるべきである。」（伝道上巻 19, 20）

「わたしたちの牧師は、諸教会を自分たちの関心の特別な場所とみなして、それらの周囲から離れないようであってはならない。そしてわたしたちの諸教会は、もし牧師の働きを受けなくても、妬んだり、なおざりにされたと感じるべきではない。彼らはみずから重荷を取り上げ、魂のために最も熱心に働くべきである。信徒たちは自ら根を持ち、固くキリストのうちに深く根を張らなければならない。こうしてこのお方の栄光のために実を結ぶことができるためである。ひとりの人として、彼らは一つの目的―魂を救うこと―を達成できるために、奮闘しなければならない。

真理を知っている全ての人はこの知識を他の人々に与えるべきである。わたしたちは人々を訓練し、彼らを働きにつかせ、真理を与えるためにあらゆる便宜を図らなければならない。この時代、大いに働き人が不足している。何十人もの男女が働きにつくべきである。」（ｵｰｽﾄﾗﾘｱ・ﾕﾆｵﾝ会議記録 1902 年 8 月 1 日）

「まもなく働くべき時は過ぎ去るであろう。この終わりの時代の働きに参加したくない者はだれであろうか。すべての人は何かができる。」（ﾋｽﾄﾘｶﾙ・ｽｹｯﾁ 173）

b.　最終的にパウロとバルナバに訪れた課題と、また彼らがとった反応を述べなさい（使徒行伝 15:1, 2; ガラテヤ人への手紙 2:1–5）。

「パウロは…異邦人たちが割礼を施し、礼典律を守るべきかどうかに関して、今ガラテヤの諸教会を動揺させているまさにその問題について決着をつけるため、エルサレムへ訪問したときのことを述べた。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1108）

c.　信徒たちの全体会議では何を考慮しましたか。また、このことは、わたしたちにとって、どの模範を与えていますか（使徒行伝 15:4–6）。

「兄弟たちは互いに相談しなければならない。なぜなら、わたしたちは神のぶどう畑の他の部分と同様に、一部において神の支配下にいるにすぎないからである。」（教会への証 8 巻 233）

3.　神のみ旨の上に一致するために集まる

a.　信徒たちの全体会議は、どのように進められ、またどの結論に達しましたか（ガラテヤ人への手紙 2:7–10; 使徒行伝 15:7–14, 19, 20）。

「〔パウロのエルサレム訪問〕は、自分の意見よりも使徒たちの判断に彼が従った唯一の例であった。彼は、まず初めに個人面接を求め、その中で指導者であった使徒たち、ペテロ、ヤコブ、ヨハネの前にその問題の真相を提示した。先見の明ある知恵をもって、彼はもしこの人たちが正しい立場をとるように導くことができたら、一切がよくなると結論づけた。彼がその疑問を最初に全体会議に提示したとした、意見の分裂があったであろう。彼が異邦人に割礼を強要しなかったために、すでに生じていた強い偏見が、多くの者に彼と反対の立場をとらせることになったであろう。そうなったら彼の訪問の目的が覆されて、彼の有益さが非常に損なわれることになったであろう。しかし、そのような偏見を持っていなかった三人の指導的な使徒たちは、真の立場についた。そしてこのことを議会の前に持ち出し、異邦人を礼典律でしばらないことを全員一致で決議した。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1108）

b.　どのような回答がアンテオケに返送されましたか（使徒行伝 15:22–31）。

c.　なぜすべての信徒たちは神のみ言葉の数々の真理を祈りをもって研究し分かち合うことにおいて、油断すべきではないのですか（ペテロの第一の手紙 3:15; テモテへの第二の手紙 2:15; 4:2–4）。

「各時代において、大敵は、自分の誘惑を人の偏見や傾向に適合させてきた。使徒の時代に、彼はユダヤ人たちを導いて礼典律を高く掲げさせ、キリストを否定させた。現代において彼はクリスチャンだと公言する多くの人々をそそのかして、キリストを尊んでいるかのような装いの下、道徳律に侮辱を投げかけ、その規則は犯しても刑罰はないと教えている。これらの信仰をゆがめる人々に抵抗して堅く断固として立ち、恐れることなく真理の言葉によって彼らの過ちを暴露することが、すべての忠実な神の僕の義務である。」（ﾊﾟｳﾛの生涯からのｽｹｯﾁ 192）

4.　　学びの途上

a.　ペテロが（エルサレム、すなわちユダヤ人と彼らの偏見を取り扱わなければならないところから来て）、アンテオケへ訪問したとき、何が起こりましたか（ガラテヤ人への手紙 2:11–13）。

「エルサレムはユダヤ人の中心地で、最も強い排他性と頑迷さが見られたところであった。神殿の見えるところに住んでいるユダヤ人のクリスチャンたちの心が、ユダヤ国民としての特別な特権に逆戻りするのは自然なことであった。彼らはキリスト教会がユダヤ教の儀式や伝統から離れて行くのを見て、ユダヤ人の慣習にさずけられていた特別な聖さが、新しい信仰の光に照らされて、まもなく失われるであろうと気づき、多くの者は、この変化を引き起こしたのは大部分パウロのせいであるとして、憤慨するようになった。弟子たちでさえ、全部が会議の決定をよろこんで受け入れる気持ちになったのではない。中には礼典律に熱心な者もいて、彼らはユダヤ人の律法の義務についてパウロの原則が手ぬるいと考え、パウロに対しておもしろくない気持ちを持っていた。

会議の決定は広く遠大な精神のものであったから、異邦人の信者たちは、確信を与えられて、神の働きは栄えていった。

のちになってペテロがアンテオケを訪問した時、彼は異邦人の改宗者たちに対する賢明な振る舞いによって、多くの人々の信頼を得た。しばらくのあいだ、彼は天来の光に従って行動した。彼は異邦人の改宗者と食事の席を共にするほどに、生まれつきの偏見を克服していた。しかし、礼典律に熱心なユダヤ人がエルサレムからやって来たとき、ペテロは異教から改心した人々に対する態度を、無分別に変えた。何人かのユダヤ人たちも『彼と共に偽善の行為をし、バルナバまでがそのような偽善に引きずり込まれた』(ガラテヤ 2:13)。指導者として愛し尊敬されている人々の弱点がこのように現れたために、異邦人の信者たちは、心に大きな痛手を受けた。教会に分裂の恐れがあった。」(患難から栄光へ上巻 212, 213)

b.　パウロはこの問題をどのように修正しましたか（ガラテヤ人への手紙 2:14）。

「ペテロがあいまいな態度をとり、教会を破壊するような悪影響を及ぼしているのを知ったパウロは、彼が本心をごまかしていることを公然と非難した。」(同上 213)

木曜日 *10月21日*

5.　　すべての人のための教訓

a.　ペテロがパウロの譴責を受け入れた方法から、わたしたちは何を学ぶべきですか。またなぜ矯正は公になされたのですか（詩篇 141:5; 箴言 27:5）。

「アンテオケで、ペテロは誠実という諸原則において失敗した。パウロは面と向かってペテロの誤りに導く影響に立ち向かわねばならなかった。他の者たちがこれによって益を得ることができるように、また高い地位にある人間に対して、彼らが誠実であることに失敗することなく、原則をきちんと守ることができるように厳粛な警告を与えるためにこのことが記録された。…

神がすべての人にその個人的弱さを自覚させて、自分の船をまっすぐに安全に港の中に向けてかじを取らせてくださるように。キリストの恵みは日ごとに欠くことができないものである。彼の比類なき恵みだけが、われわれの足を堕落から救うことができる。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1108, 1109）

「ペテロは自分のあやまちを認め、自分の力でできるかぎり、それまでの弊害を取り除くことに努めた。はじめからその終わりを知っておられる神は、ペテロが性格上の弱さをさらけだすままにさせておかれた。それはペテロが、経験を通して、自分に何も誇るべきものがないことをさとるためであった。どんなに立派な人でも、好きなようにさせておかれると、判断を誤るものである。また、将来、欺かれた人人が、神だけが持っておられる高貴な特権を、ペテロやその後継者と称する人々にも要求するようになることも、神は知っておられた。そして使徒ペテロの弱さを示したこの記録は、彼の誤りやすいことや、彼が決して他の使徒たちの上位に立つ者ではないことの証明として、残されたのである。……

人に課せられた責任が重ければ重いだけ、また、彼が命令したり、支配する機会が多ければ多いだけ、彼が神の道に慎重に従って、総会で信者たちが到達した決定に一致して働かないかぎり、彼はそれだけ大きな害を及ぼしてしまうのである。」（患難から栄光へ上巻 213, 214）

金曜日 *10月22日*

個人的な復習問題

1. **わたしたちはパウロがアンテオケにいた一見短い時から何を学ぶべきですか。**
2. **神はなぜ時にはご自分の民を集め、また時には散らされるのですか。**
3. **わたしは、信徒の会議が自分の望むことと違った決定をなすとき、何を学ぶことができますか。**
4. **わたしはどのようにペテロが陥ったわなにすべり落ちる危険があるかもしれませんか。**
5. **もしペテロのように、公にでさえ、譴責されるとしたら、何を心にとめているべきですか。**

第 5 課　　安息日 2021 年 10 月 30 日

まったく恵みによって生きる

暗唱聖句：「生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。」（ガラテヤ人への手紙 2:20）

「本物の信仰はキリストの義を自分のものとする。そして罪人はキリストと共に勝利者とされる。なぜなら、彼が神性にあずかる者とされ、こうして神性と人性が結合されるからである。」（神の驚くべき恵み 177）

推奨文献：　教会への証 5 巻 219–231

日曜日　*10 月 24 日*

1.　神の再生する恵み

a.　パウロは、救いの計画における神の恵み、またわたしたちがそれを受け入れるべき態度をどのように提示していますか（ガラテヤ人への手紙 2:15–18; エペソ人への手紙 2:8–10）。

「羊飼いの長は裁き主であられ、そして信仰によって義認され、自分たちの行いによって裁かれるご自分の僕たちと清算する手続きを規定する偉大な諸原則を例示される。信仰は愛によって働き、道徳的な汚れから魂を清める。こうして魂が主のための宮となることができるためである。」（この日を神と共に 208）.

「信仰がなければ、神を喜ばせることはできない。生きた信仰は、その所有者にキリストの功績をつかませ、その人が救いの計画から大いなる慰めと満足を得られるようにする。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 364）

「わたしたちは神の律法と調和していなければならない一方、律法の行いによって救われるのではないが、従順なしに救われることはできない。律法は品性が測られる標準である。しかし、わたしたちはキリストの再生の恵みなしに神の戒めをとても守ることはできない。イエスだけがわたしたちをすべての罪から清めることがおできになる。このお方は律法によってわたしたちを救われるのではなく、またわたしたちを律法への不従順のうちに救うこともなさらない。」（信仰と行い 95, 96）

2.　理解する恵み

a.　わたしたち自身の強さによって、あるいは何らかの自分自身の達成したことを通して、救いを得ようとすることは、何と比べることができますか（創世記 4:3–5）。

「人が自らを自分自身の行いで救うことができるとすれば、その人は自分自身のうちに何か喜ぶようなものを持っていることであろう。人が自分自身の力で救いを得ようとする努力は、カインの捧げ物として表されている。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 363）

b.　神の恵みは実際にわたしたちのために何をしますか（テトスへの手紙 2:11–14; 3:4–7）。

「イエスは今やわたしたちのために神のみ前に出られるために、至聖所の中に立っておられる。そこでこのお方は一瞬一瞬、ご自身のうちに完全なご自分の民を提示することをおやめにならない。しかし、こうして御父の前に提示して下さるからといって、このお方の憐れみにつけこみ、不注意、無関心、自己放縦になってよいと思ってはならない。キリストは罪に仕えるお方ではない。わたしたちは、信仰によってこのお方のうちに宿るときにのみ、このお方のうちに完全であり、愛されたお方のうちに受け入れられるのである。」（信仰と行い 107）

c.　わたしたちがたえず、神の恵みをはなはだ必要としている非常な深みを説明しなさい（コリント人への第二の手紙 3:3–5; ガラテヤ人への手紙 2:19）。

「わたしたちは信仰によって義認される。これらの言葉の意味を理解する魂は、決して自己満足に陥らない。わたしたちは自分自身の何かについて考えるほど、自分自身十分ではない。聖霊が、品性建設の働き、神聖なかたちに従って品性をかたちづくることにおいて、わたしたちの能力であられる。わたしたちが自分自身の経験を自分で形成することができると思うとき、大変な間違いを犯している。わたしたちは誘惑に対する勝利を自分自身で得ることは決してできない。しかし、キリストを信じる本物の信仰を持つ人々は、聖霊によって働かれる。心に信仰が宿っている魂は、主のための美しい宮へと成長する。その人はキリストの恵みによって導かれる。聖霊の教えに頼るのに比例して、成長していくのである。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ] 6 巻 1109）

3. 恵みの供給者に信頼する

a. わたしたちは自分の生活において、どのように神の恵みの利点を維持することができますか（ヘブル人への手紙 12:1–3）。

「人がキリストなしにできることはみな利己心と罪に汚れている。しかし、信仰を通してなされることは神に受け入れられる。わたしたちはキリストの功績を通して天を得ようと求めるとき、魂は進歩する。イエス、すなわちわたしたちの信仰の創始者であり完成者であられるお方を眺めつつ、わたしたちは力から力へ、勝利から勝利へと進んでいくことができる。なぜなら、キリストを通して神の恵みがわたしたちの完全な救いをなし遂げてきたからである。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 364）

「だれも自分自身の何かの働きによって義認されることはできない。彼が罪の有罪から、律法の責めから、不法の刑罰から救出されることができるのは、ただキリストの苦しみと死と復活の徳によってのみである。信仰こそ義認を得ることができる条件であり、信仰には信じることだけでなく、信頼することが含まれている。」（同上 389）

「罪人がイエスの比類のない魅力を眺めるとき、罪はもはや彼にとって魅力的なものではなくなる。なぜなら、万人にぬきんでたお方、ことごとく麗しいお方を眺めるからである。彼は個人的な経験によって、福音の力を悟る。その計画の広大さは、ただその目的の尊さに並ぶのである。」（信仰と行い 107）

b. わたしたちは、どのように神の恵みを無にすることを避けなければなりませんか（ガラテヤ人への手紙 2:21）。

「堅固な信仰は、だれをも狂信や、あるいは怠惰な僕を演じるように導くことはない。人を、イエスを見る代わりに自分自身を見させるように導くのは、サタンの魅了する力である。主の栄光がわたしたちのしんがりとなるなら、キリストの義がわたしたちの先駆けとならなければならない。もしわたしたちが神のみ旨を行うなら、神の無償の賜物として大きな祝福を受けることができる。しかし、それはわたしたちのうちに何か功績があるからではない。キリストのわざを行いなさい。そうすればあなたは神を尊ぶことになる。そしてわたしたちがイエス・キリストのうちにある命と救いを持つことができるように、わたしたちを愛し、わたしたちのためにご自分の命を下さったお方を通して、勝ち得て余りあるものとなるのである。」（同上 27, 28）

「真の信仰は救いのために完全にキリストに信頼しながら、その一方、神の律法への完全な一致へと導く。信仰は、行いによって現れる。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ] 6 巻 1073）

4.　　純潔なままでいるか、あるいは汚されるか

a.　神の恵みによって生きるという素晴らしい経験を、どのように要約することができますか（ガラテヤ人への手紙 2:20）。

「キリストの恵みを通して、神が要求なさるすべてのことを成し遂げることができる。」（信仰によってわたしは生きる 94）

「生来の心を支配する傾向は、堕落した人が天に入り、純潔で聖なる天使たちの社会を楽しむのにふさわしいものとされる前に、征服されなければならない。人が罪に死に、キリストにある新しい命によみがえるとき、神聖な愛がその心を満たす。彼の理解力は聖化される。彼は尽きることのない喜びと知識の泉から飲み、永遠の日の光が彼の道を照らす。なぜなら、彼と共に絶えず、命の光なるお方がおられるからである」（神の驚くべき恵み 250）

「信仰の一触が、わたしたちに力と知恵の神聖な宝庫を開く。こうして、土の器を通して、神はご自分の恵みの不思議を成し遂げられる。この生きた信仰こそ、今日わたしたちの大きな必要である。わたしたちはイエスが本当に自分のものであることを知らなければならない。このお方の御霊がわたしたちの心をきよめ、精錬していることを知らなければならない。もしキリストに従う人々に、柔和と愛を伴った本物の信仰があるなら、彼らはなんという働きを成し遂げることであろう！神の栄光のためになんという実が見られることであろう！」（同上 265）

b.　ガラテヤに住んでいる信徒たちのために、なぜパウロは大いに心配するようになりましたか。またこのことから、何を学ぶべきですか（ガラテヤ人への手紙 3:1; ヨハネによる福音書 3:3）。

「パウロは、ガラテヤびとを誤った道に導いた偽の指導者から離れて、神の是認の確かな証拠を持った信仰に立ち帰るように、彼らに勧告した。彼らを福音の信仰から引き離そうとした人々は、心が不潔で生活が腐敗した偽善者たちであった。彼らの宗教は、儀式の繰り返しであって、彼らは、それを行うことによって、神の恵みを得ようとしていた。彼らは、『だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない』ということばに服従を要求する福音を望まなかった（ヨハネ 3:3）。彼らは、そのような教理に基づく宗教は、あまりに大きな犠牲を要求すると感じ、自分たちの誤った道に執着して、自分を欺き、他の人々を欺いた。

宗教の外的形式を心と生活の清めに代用することは、これらのユダヤの教師たちの時代と同様に今でもなお、改心していない人々に歓迎されている。今日も当時と同様に、偽の霊的指導者がいて、多くの人々が、彼らの教えに熱心に耳を傾けている。サタンは巧妙に働いて、キリストを信じ神の律法を守ることによって与えられる救いの希望から、人々の心をそらそうとしている。大敵サタンは、各時代において、彼が欺こうとする相手の偏見や好みに、彼の誘惑を適合させる。彼は、使徒時代においては、ユダヤ人を、礼典律を尊重してキリストを拒否するように導いた。」（患難から栄光へ下巻 70, 71）

木曜日 *10月28日*

5.　　キリストに焦点を合わせ続ける

a.　パウロは、ガラテヤ人を惑わしていた特別な種類の「魔術」を見えるよう彼らの目を開くため、どの質問をしましたか（ガラテヤ人への手紙 3:2–5）。

「サタンは魔術使いであって、彼は魂からキリストが追い出されるように、そして彼自身が祭られるようにと働いてきた。」（神の息子むすめたち 336）

b.　対照的に、パウロの教えの焦点は何でしたか（コリント人への第二の手紙 4:5, 6）。

「パウロがこのようにして、彼の使徒としての地位を疑った人々に、自分が『あの大使徒たちにいささかも劣ってはいない』という証拠を示したのは、自己を高めるためではなくて、神の恵みを賛美するためであった（コリント第二 11:5）。彼の召命と彼の働きを軽視しようとした人々は、キリストに反抗していた。キリストの恵みと力が、パウロによってあらわれたのである。パウロは、敵の反対が起こったために、やむを得ず、自分の地位と権威を維持するために、断固とした態度をとらなければならなかった。

パウロは、かつてその生活に神の力を経験した人々に、福音の真理に対する最初の愛に立ち帰るようにと訴えた。彼は、彼らが、キリストにあって自由な男女になれること、またキリストのあがないの恵みによって、完全に献身する者はみな彼の義の衣を着せられることを、反駁することのできない議論によって、彼らに示した。救いを得たいと願う者は、神の事について、真実で個人的な経験が必要であるというのが、彼の立場であった。」（患難から栄光へ下巻 72）

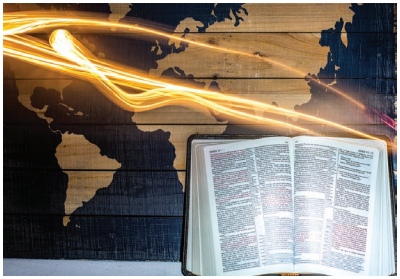
金曜日 *10月29日*

個人的な復習問題

1.　神の恵みについて、わたしは何を悟る必要がありますか。
2.　わたしはどのようにして恵みに成長することができますか。
3.　信仰はどのようにあらわされますか。
4.　ガラテヤ人を魅惑してきた人々について、何がそれほど危険だったのですか。
5.　何がわたしに、福音の最初の愛を失わせる危険を引き起こすかもしれませんか。

安息日 2021 年 11 月 6 日

第一安息日献金
貧困地域の文書のために



わたしたちは情報時代に生きていますが、また誤情報の時代でもあります。あまりにも偽情報が蔓延しているため、真実を探すために偽物をふるいにかけようとすることは、難しく、時間がかかります。これはニュース界で一般的に認められていることですが、しかし、永遠がかかっており、同様に「『偽りが世界中をめぐっている間に、真理はそのブーツを履いている』」（教会への証 1 巻 463）宗教界ではさらにどれほど重要なことでしょう。

今日の技術であらゆる価値のあるデジタル資源を手に入れられながらも、調査では興味深いパターンが示されています。人々は印刷された情報の方が、より信頼できる、つまり信用できると考えているのです。これは一般的に印刷された文書の方がしっかりと考えて出されたものであり、よりすばやい形態のメディアとして煽情的なものをすぐに受けやすいものよりもむしろ、しかるべき永続性があることによるのかもしれません。しかし、理由が何であれ、人々は印刷されたものをもっとも信頼する傾向があります。

このため、現代の真理を掲載したトラクト、パンフレット、冊子、書物が、永遠の福音を宣布するのに、重要なツールである理由です。このような文書の生産には、悲しいことに、多くの人々が、自分自身のためにも、他の人々に伝えるためにも払えないほどの出費がかかります。そこで、闇の中にいる世界中の真理を尊い魂に伝える任務が委ねられている信徒として、わたしたちにはみな、彼らがそれを受けるのを助けるため聖なる義務と特権があります。

今日の第一安息日献金は、貧困国のための文書のためです。皆さんの惜しみない―犠牲的でさえある―献金は、他の人々がキリストの再臨を学び、そのために準備するのを助けるため、長い道のりを行きます。

「すべての人は、働きの様々な分野を助けるために、人々の間でトラクトを印刷したり冊子をまき散らす資金を備えるために、自分の資金を私欲なく捧げることによってみ事業を助けることができる。み事業を促進するために金銭を捧げる人々は、働きの重荷の一部を担っているのである。彼らはキリストと共に働く共労者である。なぜなら、神は人々に信頼して資金を供給し、彼らがそれを賢明に聖なる目的をもって用いることができるようになさるからである。これは、天が善をなすために定めて下さった手段の一つであり、人々が両替人に差し出すべきタラントの一つである。」（レビュー・アンド・ヘラルト 1883 年 1 月 9 日）

キリストと共に働いて下さり、ありがとうございます！

世界総会出版支部

第 6 課　　安息日 2021 年 11 月 6 日

どちらの主人に従うか？

暗唱聖句：「そむくことは占いの罪に等しく、強情は偶像礼拝の罪に等しいからである。」（サムエル上 15:23（上句））。

「聖書の教理と反対の教理を提示する人々は、神の宮から追放された大背教者によって導かれているのである。」（〝教育の基礎 331）

推奨文献：　教会への証 5 巻 137–148; 2 巻 461–465;
人類のあけぼの下巻 307

日曜日　*10 月 31 日*

1.　永続的な問題

a.　今日しばしば、ガラテヤの人々がそうであったように、多くの信徒たちが「魔術をかけられる」ようになる巧妙で潜在的な理由は何ですか（サムエル記上 15:17–23（上句））。

「人を、イエスを見る代わりに自分自身を見させるように導くのは、サタンの魅了する力である。」（信仰と行い 27）

「わたしたちの判決は天の法廷で保留されている。わたしたちは日々自分の会計報告を提出しなければならない。すべての人が自分の行いに従って報いられる。燔祭と犠牲は昔、その捧げものを捧げる精神が正しくない限り、神に受け入れられなかった。サムエルは次のように言った、『主はそのみ言葉に聞き従う事を喜ばれるように、燔祭や犠牲を喜ばれるであろうか。見よ、従うことは犠牲にまさり、聞くことは雄羊の脂肪にまさる』。地上のすべての金銭は、神の祝福を買うことはできないし、あなたに一つの勝利でも保証することはない。

多くの人々は、まさに捧げるべき一つを除いて、何か、あるいはすべての犠牲を払うかもしれない。それは自分自身を明け渡し、自分の意志を神のご意志に屈服させることである。キリストはご自分の弟子たちに言われた、『心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう』。ここに謙遜における教訓がある。わたしたちはみな、御国を継ぐために幼子のようにならなければならない。」（教会への証 4 巻 84）

2.　　恋わずらいの盲目

a.　どのわなが、今日しばしば、一時には信徒だと公言する人々の間にあってさえ―魅惑する力を助長させていますか（箴言 6:23–26; 7:4, 5; テモテへの第二の手紙 3:5, 6）。

「サタンの魅惑的な力が人を支配するとき、神は忘れられ、堕落した目的に満ちた人がほめそやされる。隠れた好色が、これらの欺かれた魂によって徳のように実行される。これらは魔法の一種である。ガラテヤの人々になされた使徒の質問を訊ねることができる、『ああ、物わかりのわるいガラテヤ人よ。十字架につけられたイエス・キリストが、あなたがたの目の前に描き出されたのに、いったい、だれがあなたがたを惑わしたのか』。異端や好色にはいつも魅惑する力がある。頭脳は非常に欺かれて、知的に筋道立てて考えることができず、幻想は絶えず、それを純潔から導きそらせる。霊的な視力は曇らされ、それまで道徳的に汚されていなかった人々が、光の使者だと公言しているこれらのサタンの代理人たちの偽りの詭弁の下で混乱させられる。これらの代理人たちに力を与えているのは、この妄想である。彼らは大胆に出てきて、あからさまに言い寄るなら、一瞬のためらいもなく拒絶されるであろう。しかし、彼らはまず同情を得て、聖なる自己犠牲的な神の人として自ら信用を勝ち得るために働くのである。神の特別な使命者たちとして、その後彼らは、神の律法を無効にしようと試みることによって、清廉な道から魂を引き離す巧妙な働きを始めるのである。」（教会への証 5 巻 142, 143）

b.　どのようにある種の書物、ビデオ、ウェブサイト、また音楽的な形でさえ、徐々にこのような問題へと導く思想の引き金となることが可能ですか（箴言 23:6–8）。

「ラブストーリーや軽薄で興奮させる話は、読む者すべてにとってのろいとなる種類の書物を構成している。著者は良い道徳的な教訓を添え、作品全体を通じて宗教的な情感を織り交ぜるかもしれないが、ほとんどの場合、サタンが天使の衣を着ているにすぎず、より効果的に欺き、魅惑するのである。思いは大いに養われているものによって影響を受ける。軽薄で興奮する物語を読む人々は、自分たちの前におかれている義務に適さないものとなる。彼らは非現実的な生活を送り、また聖書を探って天来のマナを食そうという願いは持たない。思いは弱められ、義務と運命の大問題を熟考する力を失うのである。」（同上 7 巻 165）

3.　　他の感化力

a.　これらの軽薄さやロマンスを助長するものの他、どのような別の種類のものを読んだり、聞いたり、あるいは見たりするとわたしたちを魅惑するかもしれませんか。敵がわたしたちを釣り上げるために用いるルアー（疑似餌）をいくつかあげなさい（ヨハネの第一の手紙 2:15–17, 21（下句）；使徒行伝 17:21）。

「胸を悪くするような犯罪と残虐行為の関係には、多くの青年たちに対して魅惑的な力を持ち、彼らのうちに最も邪悪な行為によってでさえ、自らが注目されたいという願望をかきたてる。…人間の悪魔的な行為を描く書物は、邪悪な行為に注目を与えている。犯罪や悲惨さの恐ろしい詳細を繰り返し生きる必要はなく、この時代のための真理を信じる人はだれも、それらの記憶を永続化させることに一役買うべきではない。」（文書伝道者 75）

「刺激的な物語が青年の精神にどれほど悪影響を及ぼすことだろう。あなたはそのような読書のあとで、神のみことばを開き、興味をもって生命のみことばを読むことができるだろうか。……あなたはそのようなつまらぬ目的のために、両親に属する時間を費やすことにより両親に対して罪を犯すのであり、神への献身に費やすべき時間をそのように用いることによって、神に向かって罪を犯すのである。」（ｱﾄﾞﾍﾞﾝﾁｽﾄ・ﾎｰﾑ 473）

b.　敵の策略の一つを述べなさい。またそれがどのようにイエスを標的にしたが成功しなかったか、それにもかかわらず、どのようにあまりにもしばしば、わたしたちには成功していることを述べなさい（ルカによる福音書 4:5–8; ヨハネによる福音書 14:30）。

「世を非常に魅力的にするのがサタンの目的である。彼にはキリストの信徒だと公言する人々の愛情でさえひくために働く魅惑的な力がある。富を得るためには、どんな犠牲でも払う自称クリスチャンが多くいる。…

非常に多くの者がサタンに惑わされているのは、憂慮すべきである。彼は世俗の利益について輝かしい可能性で想像をかきたて、人々はのぼせている。そして、自分たちの前に完全な幸福の見通しがあると考える。彼らは誉と富と地位を得るという希望によって誘惑される。サタンは魂に次のように語る、『わたしはこれらをみな、あなたに与えよう。このすべての力と富をもって、あなたは同胞に善をなすことができる』。しかし、彼らの求めていた目的を得たとき、彼らは自らが自己否定の贖い主とつながりがないことを見出すのである。…

信心深さから世俗への変化は、悪い者の狡猾なほのめかしによって、非常にかすかになされてきたため、欺かれた魂は、キリストの交わりから離れてしまったことに気づかないのである。」（管理職への勧告 213–215）

4. 致命的な欺瞞

a. なぜわたしたちは、クリスチャンの信仰のために真剣に戦わなければならないのですか（ユダの手紙 3, 4, 8, 11）。

「反逆の創始者はサタンである。神に対する反逆は、すべてサタンの直接の影響によるものである。神の統治に反逆する者は、大反逆者と同盟を結んだのである。そして、彼は、人々を魅惑して理解を誤らせるために、その能力と技能を働かせる。彼は、すべてのものを虚偽で色どる。彼の魔力に惑わされたものは、われわれの先祖と同様に、罪によって得ることができる大きな利益のことしか考えない。

サタンの欺瞞の力は、実に強力で、彼に従う多くの者が、実際に神に仕えていると思い込んでしまうほどである。…

サウル〔王〕は、非常な熱心さをもって偶像礼拝と魔術とを禁止した。それにもかかわらず、彼は、神に対抗する同様の精神に支配されて、神の命にそむき、魔術を行なう人人と同様に、実際にサタンの力に動かされていた。彼は譴責されたときに、反逆に強情の罪も加えた。彼がたとえ公然と偶像礼拝に加わったとしても、神の霊をこれ以上侮辱することはできなかった。

神の言葉、または聖霊の譴責と警告を軽んじることは危険なことである。多くの者は、サウルのように誘惑に負けて目がくらみ、罪のほんとうの性質がわからなくなってしまう。彼らは、有意義な目標をめざしているという自負心をいだいていて、神の要求から離れても悪を行なったとは思っていない。こうして、彼らは恵み深い霊を軽んじて、ついにその声を聞くことができなくなって、自分たちの選んだ欺瞞の中に取り残されてしまう。」（人類のあけぼの下巻 307, 308）

「神の霊のみちびきの下にない男女や子供は、サタンの魔法の影響下にあって、しかも自分のことばや行為によって他の者まで真理の道からひきはなす。」（青年への使命 276）

「わが兄弟方よ、神はあなたの妬みや嫉妬、あなたの敵意や不和を悲しんでおられる。これらすべてにおいて、あなたはキリストではなく、サタンへ従順を捧げているのである。... 人々が、... 誇り高く、虚栄心が強く、軽薄で、世俗的な思いをもち、強欲で、不親切で、批判的なとき、彼らがだれと交わっているか、彼らの緊密な友がだれであるかを教えてもらうに及ばない。彼らは魔術は信じていないかもしれない。しかし、それにもかかわらず、彼らは悪霊と交わりを持っているのである。」（教会への証 5 巻 224, 225）

「反逆と背教が、わたしたちの呼吸している大気そのものである。わたしたちの無力な魂が信仰によってキリストにすがらないかぎり、それらに影響を受けてしまう。」（彼を掲げよ 21）

木曜日 *11月4日*

5.　　行動をとる

a.　初期の使徒たちの時代に、どのような危険がサマリヤで待ち伏せしていましたか。またどのようにそれは解決しましたか（使徒行伝 8:9–13）。わたしたちは特にエペソにいたある信徒たちによって取られた措置から、なぜ鼓舞されることができるのですか（使徒行伝 19:17-20）。

「サタンはみごとな頭脳を持っており、また彼には、人を得意にさせ、彼らに神に勝る栄誉を着せるために働く自分の代理人たちを持っている。しかし、神は力をまとっておられる。このお方はとがと罪のうちに死んでいる人々をとりあげ、死人の中からイエスをよみがえらせた御霊の働きによって、人間の品性を変え、魂に失われた神のみかたちを戻されるのである。」（ユース・インストラクター 1895 年 2 月 7 日）

「罪のない自由への道は、自己を十字架につけること、及び闇の権力との闘いを通っている。」（わたしたちの高い召し 321）

「出版された書物の大部分を燃やすことができれば、頭脳を弱め、心を堕落させる恐るべき働きをしている疫病はとどめられることであろう。誘惑される恐れがないほど、正しい諸原則のうちに確立している人はだれもいない。これらのくずのような読み物は、断固として処分されるべきである。」（文書伝道者 76）

「無神論者が、改心すると、神のみ言葉を疑うように導いた書物を忌み嫌うようになる。真理に従うことによって自分の魂をきよめてきた放蕩者は、好奇心や習慣から、読みなれた放蕩の場へあえて行こうとはしなくなる。また彼は自分の思いが好色家のページに描写されたそのような光景を考えることを許すことをしなくなる。彼は自分の危険に目覚め、自ら誘惑を遠ざけ、真剣にその魅惑的な力について他の人々に警告する。かつて抱いていた偶像が何であろうと、改心した人は悪に抵抗するだけでなく、できるかぎり自らをサタンの力のおよばないところへ置く。わたしはキリストに従う人々にもう一度訊ねる、『あなたは魔術の本を捨てたであろうか』。」（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1882 年 5 月 18 日）

金曜日 *11月5日*

個人的な復習問題

1. **なぜ敵は、安息日遵守者のうちに反逆をかきたてようとするのですか。**
2. **今日、社会の中で姦淫がどのように描かれているかについて、わたしたちは何を悟らなければなりませんか。**
3. **誘惑に直面したとき、わたしはどのようにもっとイエスのみ足の跡に近く従うことができますか。**
4. **人生のどの分野において、わたしは魅惑されやすいかもしれませんか。**
5. **わたしのどの持ち物を、処分するのが、あるいは破壊さえすることが最善かもしれませんか。**

恵みの契約

暗唱聖句：「それは、アブラハムの受けた祝福が、イエス・キリストにあって異邦人に及ぶためであり、約束された御霊を、わたしたちが信仰によって受けるためである。」（ガラテヤ人への手紙 3:14）

「地の基が据えられる前に、従順なすべての人々、備えられた豊かな恵みを通して品性において聖なるものとなり、恵みを自分のものとすることによって、神のみ前に傷のない者となるすべての人々は神の子となるという契約は結ばれていた。この契約は、とこしえから結ばれ、キリストが来られる何百年も前にアブラハムに与えられていた。」（ｸﾘｽﾁｬﾝ教育の基礎 403）

推奨文献：　人類のあけぼの上巻 430-444

日曜日　*11 月 7 日*

1.　父祖時代におけるキリスト

a.　ユダヤ風の人々に感化されたガラテヤ人に述べるにあたり、パウロはアブラハム―ヘブル人がみな家系により自分たちの父だと主張していた人―とキリストの関係を、どのように紹介しましたか（ガラテヤ人への手紙 3:6–8）。

「救い主がこの世に降臨なさった時ばかりでなく、人類の堕落およびその贖罪の約束が与えられたとき以来、各時代を通じて『神はキリストにおいて世をご自分に和解させ』ておられた（コリント第二 5:19）。キリストは、家長時代とユダヤ時代の両時代にわたって、犠牲制度の基礎であり中心であった。われわれの先祖が罪を犯して以来、神と人間の間には直接の交わりはなかった。父なる神は、この世界をキリストの手におゆだねになった。そして、神は、キリストの仲保の働きによって、人間を救い、神の律法の権威と神聖さを擁護なさるのである。堕落した人間と天との交わりは、すべてキリストを通じて行なわれた。（人類のあけぼの上巻 434）

b.　のろわれた者と対照的に、だれが祝福された者でしたか（ガラテヤ人への手紙 3:9, 10）。

2.　　キリストと二つの律法

a.　キリストとその永遠の道徳律である十戒との間の関係を説明しなさい（イザヤ書 42:21; ガラテヤ人への手紙 3:11–14.

「神の律法は人が創造される前から存在していた。それは聖なる存在の状態に適合していた。天使たちでさえ、それによって統治されていた。堕落後、義の諸原則は変更されなかった。何一つ律法から取り去られたものはなかった。その聖なる規則から取り除くことができるものは一つとしてなかった。そしてそれが始めから存在してきたように、永遠の尽きない年月を通じて、それは存在し続けるのである。…

この律法によって、すなわち天使たちを治めており、思想、願望、気質の最もひそかなところに純潔を要求し、また『世々かぎりなく堅く立』つこの律法によって、全世界はすみやかに近づきつつある神の日に裁かれることになる。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 220）

「キリストと御父は、山の両脇に立たれて、厳粛な尊厳のうちに十戒を宣言された。」（伝道 616）

「もし神の律法が変更したり廃止したりできるものだったら、キリストは、われわれの罪とがの結果を身に負われる必要はなかった。イエスは、律法と人との関係を説明し、自ら律法に従う生活をすることによって、その戒めを例示するためにおいでになった。」（各時代の希望中巻 13）

b.　犠牲となる神の小羊を指し示していた礼典律における対比を説明しなさい（ヘブル人への手紙 9:27, 28（上句）; 10:1, 4–10）。

「救い主の約束が与えられ、大いなる罪祭、キリストの死を予表したささげ物の犠牲制度が設けられた。しかし、もし神の律法を犯すことがなかったならば、死もなければ、救い主の必要もなかった。従って、犠牲の必要もなかった。」（人類のあけぼの上巻 430）

「この礼典律のことを言っている聖句を用いて、この二つの制度を織りまぜて考え、道徳律は廃されたということを証明しようとする人々が多くいる。しかし、これは聖書の曲解である。この二つの制度には、実に明瞭な区別がある。儀式の制度は、キリストとキリストの犠牲、そしてキリストの祭司職を示す象徴によって成り立っている。犠牲と儀式のこの礼典律は、世の罪を取り除く神の小羊であられるキリストの死という型の実体があらわれるまで、ヘブル人が行なうべきものであった。」（同上 432）

3.　　恵み

a.　いつ恵みの契約が最初に必要になり、すぐに備えられ、来たるべき救い主を指し示しましたか（創世記 3:9–11, 14, 15, 21）。

「罪が生じると同時に、救い主がおられた。」（各時代の希望上巻 258）

「恵みの契約は、まず、エデンで人間に与えられたのである。人間が堕落したあとで、女のすえがへびのかしらを砕くという約束が与えられた。この契約は、すべての人に罪のゆるしを与え、キリストを信じる信仰によって、その後従うことができるように、神の恵みの助けを与えた。それは、また、神の律法に忠誠を尽くすことを条件にして、永遠の命を約束した。こうして、家長たちは、救いの希望を与えられたのである。」（人類のあけぼの上巻 439）

b.　この契約はどのようにアブラハムに対して更新されましたか（創世記 22:18; ガラテヤ人への手紙 3:14–18）。

「アブラハムは、…キリストに頼って罪の許しを求めた。彼が義と認められたのはこの信仰であった。アブラハムとの契約は、神の律法の権威をも維持した。主は、アブラハムに現れて、『わたしは全能の神である。あなたはわたしの前に歩み、全き者であれ』と言われた（創世記 17:1）。この忠実なしもべについて、神は、『アブラハムがわたしの言葉にしたがってわたしのさとしと、いましめと、さだめと、おきてとを守った』とあかしされた（創世記 26:5）。そして、主は、『わたしはあなた及び後の世々の子孫と契約を立てて、永遠の契約とし、あなたと後の子孫との神となるであろう』と彼に宣言された（創世記 17:7）。

この契約はアダムと取り交わされ、また、アブラハムにくり返して与えられたとはいえ、キリストの死によって初めて批准されたのである。これは、初めて贖罪の知らせがかすかながら与えられたときから、神の約束によって存在していたのである。人々は、これを信仰によって受け入れていた。しかし、それがキリストの血によって批准されたときに、それは新しい契約と呼ばれた。神の律法がこの契約の基礎であった。律法は、単に、神のみこころに人々をもう一度調和させ、彼らが神の律法に従うことができるようにする手段であったにすぎない。」（同上 439, 440）

4.　　二つの契約

a.　「古い」契約は何でしたか。だれがそれを破りましたか。そしてなぜ、それは信用できないのですか（出エジプト記 24:6–8; 32:1, 31）。

「もう一つの契約は、聖書で『古い』契約と呼ばれているが、それは、シナイで神とイスラエルの間に結ばれたもので、それは、そのとき犠牲の血によって批准された。

人々は、その奴隷時代に、神に関する知識と、アブラハムに与えられた契約の原則の大部分を忘れてしまっていた。…

彼らは、偶像礼拝と腐敗のなかで生活していたので、神の神聖さと、自分たちの心のはなはだしい罪深さと、自分たちの力だけでは、神の律法を守ることができないこと、そして、彼らには、救い主が必要であることを真に自覚していなかった。こうしたことを、すべて、彼らは学ばなければならなかった。

神は、彼らをシナイに導き、ご自分の栄光をあらわされた。神は、彼らに律法を与え、服従することを条件にして、大きな祝福をお約束になった。『それで、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、‥‥あなたがたはわたしに対して祭司の国となり、また聖なる民となるであろう』（出エジプト記 19:5, 6）。人々は、自分たちの心の罪深さと、キリストの助けがなくては神の律法を守ることができないことを自覚しなかった。そして、彼らは直ちに神と契約を結んでしまった。彼らは、自分たちの義を確立することができると感じて、『わたしたちは主が仰せられたことを皆、従順に行います』と宣言した（同 24:7）。彼らは、恐るべき威光のうちに律法が宣言されるのを見、山の前で恐れおののいた。しかし、それにもかかわらず、その後わずか数週間しかたたないうちに、彼らは神との契約を破り、偶像にひざまずいて礼拝したのである。彼らは、契約を破ってしまったために、神の恵みを受けることは望めなくなった。」（人類のあけぼの上巻 442）

b.　主は恵み深くも、アブラハムに対して与えられた元の契約を、どのように「新しい」契約と呼んで、更新してくださいましたか（エレミヤ書 31:33, 34; 詩篇 40:8）。

「石の板に刻まれたのと同じ律法が、聖霊によって心の板に書かれるのである。自分自身の義を確立させようと努力するかわりに、われわれは、キリストの義を受け入れる。キリストの血がわれわれの罪を贖うのである。キリストの服従が、われわれに代わって受け入れられる。こうして、聖霊によって新しくされた心は、『御霊の実』を結ぶのである。キリストの恵みによって、われわれは心に書かれた神の律法に従って生きるのである。キリストのみ霊を持っているから、彼が歩かれたように歩くのである。」（同上 442, 443）

木曜日 *11月11日*

5.　　内から輝くキリスト

a.　新約聖書は、今日わたしたちのための同じ恵みの契約を、どのように描写していますか（ヘブル人への手紙 8:10–13; ヤコブの手紙 2:18–23）。

「アブラハムは神を信じた。わたしたちはどのように彼が信じたことを知るであろうか。彼の行いが、その信仰の性質を証していた。そして彼の信仰は、彼の義と認められた。

わたしたちはこの時代に、わたしたちのまわりに押しよせ、神の愛というかんばしい日光を締め出して霊的な成長を矮小化している闇を照らすために、アブラハムの信仰を必要としている。わたしたちの信仰は、善行を多く生むべきである。なぜなら、行いがなければ、信仰は死んでいるからである。果たされる毎日の義務、イエスのみ名によって払われるすべての犠牲は、はなはだしい報いをもたらす。義務の行為そのものにおいて、神はご自分の祝福を語り、与えて下さる。」（キリストを映して 79）

「キリストの恵みの変化させる力は、自らを神の奉仕に捧げる人をかたちづくる。贖い主の御霊を吹き込まれて、その人は自己に死ぬ用意ができており、十字架を取り上げる用意ができており、主人のためにどんな犠牲でも払う準備ができている。もはや自分の周囲で滅びつつある魂に無関心ではいられない。彼は身勝手を超越して引き上げられる。彼はキリストにあって新しく創造されたのであり、もはや彼の生活に身勝手の余地はない。…

あなたは喜んで、他のすべての関心にまさって魂の救いの働きを優先するであろうか。救い主の生涯を特徴づけた罪人を救おうとする願望の真剣さが、このお方に真に従う人々の生活を特徴づける。クリスチャンには自分のために生きようとする願いがない。彼は自分の所有しているすべてのもの、自分の存在すべてを、ご主人の奉仕に捧げることを喜ぶ。彼は魂をキリストに勝ち取りたいという表現しがたい願望によって動かされる。この願いをまったくもっていない人々は、自分自身の救いを案じるほうが良い。彼らに奉仕の精神を求めて祈らせなさい。」（教会への証 7 巻 9, 10）

金曜日 *11月12日*

個人的な復習問題

1.　旧約時代に、キリストはどこにおられましたか。
2.　道徳律と礼典律の違いは何ですか。
3.　新しい契約はどれくらいのあいだ存在していましたか。またなぜそれは「新しい」と呼ばれているのですか。
4.　どの手段を通して、わたしたちは聖なる神の道徳律を守ることができるようになりますか。
5.　「律法の下にいる」とあなたを責める人に、あなたはどう説明しますか。

その純潔さのままの福音

暗唱聖句：「したがって、あなたがたはもはや僕ではなく、子である。子である以上、また神による相続人である。」（ガラテヤ人への手紙 4:7）

「神は人に、ご自分の律法の中で、人生の完全な規則を与えてこられた。従うとき、キリストの功績を通して、彼はそれによって生きるであろう。犯すとき、律法には有罪に定める力がある。律法は人をキリストへ送る。そしてキリストは彼らを律法へ送り返されるのである。」（わたしたちの高い召し 138）

推奨文献：　ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 233–235, 340–344
原稿ﾘﾘｰｽ 9 巻 181–187

日曜日　*11 月 14 日*

1.　わたしたちの唯一の希望

a.　わたしたちは、特に人気のない真理を他の人々に伝えるときのパウロの焦点から、何を学ぶべきですか（コリント人への第二の手紙 4:5; ガラテヤ人への手紙 3:19–22）。

「異邦人たちに、〔パウロは〕キリストを彼らの救いの唯一の希望として宣布したが、最初に律法に関して明確に何かを述べることはしなった。しかし、わたしたちの世に与えられた神の賜物としてのキリストの提示と、また人に対する神の愛をあらわすために高価な犠牲によってなされた贖い主の働きを理解したことで、彼らの心が温められた後、もっとも雄弁な単純さで、彼は全人類―ユダヤ人と異邦人―のための愛を示した。それは彼らが自分たちの心をこのお方に明け渡すことによって救われることができるためであった。こうして、溶かされ、征服されて、彼らが主に自らを捧げたとき、彼は彼らの従順の試金石として、神の律法を提示した。これが働く方法である。魂を勝ち取るために、彼の方法を採用しよう。彼がみ言葉を扱うのに唐突で未熟であったならば、ユダヤ人にも異邦人にも心に触れることはできなったであろう。

彼は異邦人が神の愛の驚くべき数々の真理をながめるように導いていった。…なぜそのように甚大な犠牲が要求されたのかを質問された、そのとき、彼らは型へと戻り、旧約聖書を下っていって、律法におけるキリストを明らかにした。そのとき、彼らはキリストと律法へと改心した。」（ｻｻﾞﾝ・ﾜｰｸ 77）

2. キリストへ導かれる

a. キリストと、わたしたちがこのお方を大いに必要としていることに関連して、この律法は何と比較できますか（ガラテヤ人への手紙 3:23–26; ヨハネによる福音書 15:5）。

「罪人が大いなる道徳的に調べる鏡を見入るとき、彼らは自分の品性の欠点を認める。彼は自らをありのままに、しみがつき、汚れて、有罪宣告を受けているのを見る。しかし、彼は律法は、どうしても違反者の罪を取り除いたり、許したりできないことを知っている。彼はこの先に進まなければならない。律法は彼をキリストへ連れていく養育掛にすぎない。彼は罪を担う自分の救い主を見なければならない。そしてキリストがカルバリーの十字架上で全世界の罪の重さの下に死んでいかれるのが、彼に表されるとき、聖霊は自分のとがを悔い改めるすべての人に対する神の態度を彼に示してくださるのである。〔ヨハネ 3:16 引用〕」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 213）

「わたしはガラテヤ書にある律法に関して訊ねられている。どの律法がキリストにわたしたちを連れていく養育掛なのだろうか。わたしは答える、礼典律と道徳律の十戒の両方である。」（同上 233）

「キリストを通して、そしてキリストを通してのみ、命の泉が人の性質を活気づけ、彼の嗜好を変え、彼の愛情を天に向かってあふれるように定めることができる。」（同上 341）

「〔ガラテヤ 3:24 引用〕。この聖句では使徒を通して聖霊が特に道徳律を語っておられる。律法はわたしたちに罪を明らかにする。そしてわたしたちにキリストの必要を感じさせ、神に対する悔い改めとわたしたちの主イエス・キリストに対する信仰を働かせることによって、許しと平安を求めて、このお方に逃れさせるのである。…

十戒の律法は、禁止の側からよりも憐れみの側から見るべきである。その禁止は従順にあって幸福の確かな保証である。キリストのうちに受け入れるとき、それはわたしたちのうちに品性の純潔をもたらし、それが永遠の年月にわたってわたしたちに喜びをもたらす。従順な者にとって、それは防壁である。わたしたちは律法のうちに神のいつくしみ深さを見る。このお方は人に義の不朽の諸原則をあらわすことによって、彼らを不法の結果生じる悪から防御しようとなさるのである。…

律法は神のお考えの表現である。わたしたちがそれをキリストのうちに受け入れるとき、それがわたしたちの考えになる。それはわたしたちを引き上げて生来の願望や傾向の力に超越させ、罪へ導く誘惑を超越させる。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1110）

b. バプテスマを通じてなされるキリストへのわたしたちの誓いは、どのようにわたしたちの生活における変化を確かにするよう意図されていますか（ガラテヤ人への手紙 3:27; ローマ人への手紙 13:14）。

3. 調和の中に混じりあう

a. キリストの真の信徒たちの主要な一つの特徴をあげなさい（ガラテヤ人への手紙 3:28）。

「人類家族でキリスト自らを捧げる人だれでも、真理を聞いてそれに従う人はだれでも、一つの家族の子供となる。無学な者も賢者も、富める者も貧しい者も、異教徒も奴隷も、白人も黒人も、イエスが彼らの魂のために贖い代を支払われたのである。もし彼らがこのお方を信じるならば、このお方のきよめの血は彼らに塗られる。黒人の名が命の書の中で白人の名の横に記される。すべての人はキリストにあって一つである。誕生、地位、国籍、肌の色は、人を上げることも下げることもできない。品性が人をなすのである。もし赤い人〔アメリカン・インディアン〕、中国人、あるいはアフリカ人が、従順と信仰のうちに、自分の心を神に捧げるなら、イエスはその肌の色によって減じることなくその人を愛される。このお方は彼を愛する兄弟とお呼びになるのである。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 2 巻 342）

「神の子らはキリストのうちに一つなのであるから、イエスは、肌の色や人種、地位、富、誕生、あるいは学識のゆえに生じるカーストや、社会的な区別、人が自分の同胞から分裂することを、どのようにご覧になるであろうか。一致の秘訣は、キリストを信じる信徒の平等のうちに見いだされる。」（同上 1 巻 259）

b. 社会の中に格差が存在しているときに、わたしたちクリスチャンの義務を説明しなさい（エペソ人への手紙 6:5–9）。

「キリストとその使命はまちがって解釈され、一般の人々は、自分たちは事実上福音の働きからしめ出されていると思っている。だがキリストからしめ出されていると彼らに思わせてはならない。人間やサタンが築くことのできる壁で信仰によって突破できないものは一つもない。」（各時代の希望中巻 163）

「すべての習慣や思想において完全な人も、国家もない。人は他人から学ばなければならない。そこで神は様々な国籍が互いに交わり、判断において一つ、目的において一つになるように望んでおられる。そのとき、キリストのうちにある一致が具現化するのである。…

イエスを見なさい、兄弟方よ。このお方の方法と精神を模倣しなさい。そうすればあなたにはこれらの様々な階級の人々の心に触れるのに何の問題もなくなる。」（教会への証 9 巻 180, 181）

「キリスト教は、主人と奴隷、王と臣民、福音を説く牧師とキリストの中に罪からのきよめを見いだしている堕落した罪びととの間に、強い一致のきずなをつくる。彼らは同じ血潮に洗われ、同じみ霊によって生かされた。そして彼らはキリスト・イエスにあって一つとされているのである。」（患難から栄光へ下巻 152）

4.　　このお方の犠牲を信じる信仰の純潔さ

a.　神の家族に養子縁組される特権を説明しなさい（ガラテヤ人への手紙 3:29; 4:1–7）。これはどのように起こりますか（ヨハネによる福音書 1:12, 13）。

「神を信ずるこの簡単な行為によって、聖霊は私たちの心に新しいいのちを与えてくださった。わたしたちは神の家族の子供として生れたのであり、このお方はみ子を愛されるようにわたしたちを愛してくださる。」（キリストへの道 67）

「贖いの計画はその単純さと完全さにおいてなんとすばらしいことであろう。それは罪人の完全な許しを提供するだけでなく、違反者の回復のためにも備え、神の息子として受け入れられる道を拓く。従順を通して、彼は愛と平安と喜びの所有者となることができる。彼の信仰は弱さのうちにある自分を、神聖な力の源であられるキリストに結びつけ、キリストの功績を通して、神の是認を見出すことができる。なぜなら、キリストは律法の要求を満足させられたからである。そしてこのお方はご自分の義を悔い改めた信じる魂に着せて下さる。」（彼を知るために 96）

b.　わたしたちの人間の性質のうちにある誇りの邪悪さのゆえに、キリストはご自分の教会にどの新しい儀式をお与えになりましたか。それでいながら、ガラテヤ人はそうせずに、どのようにこのお方の十字架を正しく評価することにさえ失敗を明らかにしましたか（ヨハネによる福音書 13:14; ガラテヤ人への手紙 4:8–10）。

「この〔謙遜の〕儀式は、人の知力よりは人の心にさらに大きく訴える。人の道徳的また霊的性質はそれを必要としている。もしこのお方の弟子たちがそれを必要としていなかったならば、キリストが最後の晩餐と関連しこれに含めて最後に制定された儀式として、それを彼らに残すことはなさらなかったであろう。ご自分の弟子たちに、彼らがまさに必要としていたことを彼らのためになす儀式を残していかれることが、キリストの願いであった。それは彼らをこれまで重要不可欠なものとして携わってきたが、福音を受け入れることによってもはや効力を持たない礼典や儀式から彼らを解放するために役割を果たすのであった。これらの儀式を続けることはエホバに対する侮辱となるのであった。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]5巻 1139, 1140）

「ガラテヤの諸教会において、公然とあからさまな誤謬が福音の信仰にとって代わりつつあった。真の基礎であられるキリストが、事実上、すたれたユダヤ教の儀式のために放棄されていた。」（ﾊﾟｳﾛの生涯からのｽｹｯﾁ 190）

木曜日 *11月18日*

5.　　愛の働き

a.　わたしたちはみな、パウロの優しい訴えから、何を学ぶことができますか（ガラテヤ人への手紙 4:11–18）。

「様々な環境と状態の下で、様々な階級の人々の思いを賢明に扱うことは、神の御霊によって啓発され、聖化された知恵と判断を要求する働きである。キリストの牧師は、自分の働きを、自分が益しようとしている人々の状態に合わせる重要性を学ぶべきである。やさしさ、忍耐、決断、堅固さはひとしく必要である。しかし、それらはしかるべき分別を持って働かせるべきである。神の僕たちがなお諸教会の中に起こる試練や困難に思慮深く対応することが望めるのは、ただ神と緊密なつながりを維持することによってである。

パウロはガラテヤ人にキリストの福音をその純潔さのうちに提示してきた。彼の教えは聖書と調和していた。そして聖霊が彼の働きを証言してきた。そこで、彼は自分の兄弟たちに彼らが教えられてきた真理に矛盾するものは何一つ耳を傾けるべきではないと警告した。」（パウロの生涯からのスケッチ 190）

b.　律法と福音が混じって、どのように希望を与えますか（ガラテヤ人への手紙 4:19–21）。

「イエス・キリストを信じる人はだれも神の律法のくびきの下にはいない。なぜなら、このお方の律法は命の律法であり、死の律法ではないからである。律法の霊性を把握するすべての人、罪を検知するその力を悟るすべての人は、イエス・キリストの救済的な犠牲のうちに自分たちのために備えられた贖罪を受け入れない限り、サタン自身とまったく同様に無力な状態である。…キリストを信じる信仰を通して、律法のすべての規則に対する従順が可能になる。」（原稿リリース 8 巻 98）

金曜日 *11月19日*

個人的な復習問題

1. **神の道徳律について語るとき、なぜキリストを伝えることが重要不可欠なのですか。**
2. **キリストか律法のいずれかを拒む人々は、どのように自らに害をなしますか。**
3. **わたしはどのようにして自分と似ていない人々と、キリストの一致を促進することができますか。**
4. **クリスチャンがユダヤ人の儀式を今日も存続させるとき、何が悪いのですか。**
5. **わたしはどのように、魂を勝ち取るための方法において、もっとパウロのようになることができますか。**

クリスチャンの自由

暗唱聖句：「キリスト・イエスにあっては、割礼があってもなくても、問題ではない。尊いのは、愛によって働く信仰だけである。」（ガラテヤ人への手紙 5:6）

「愛によって働き、魂をきよめる信仰は、きよく向上させ聖化する働きであり、不快な人間の性質をやわらげ、征服する。キリストの愛は信徒に迫り、彼らをカルバリーの十字架で調和の取れた行動のうちに混じりあうようにする。」（医事伝道 316）

推奨文献：　人類のあけぼの上巻 150–153

日曜日　*11 月 21 日*

1.　肉による奴隷

a.　アブラハムの経験は、わたしたち自身の有限な力のうちに生きるという霊的な奴隷のくびきをどのように示していますか（創世記 16:1–4, 11, 12, 15; ガラテヤ人への手紙 4:22–25）。

「アブラハムは、むすこが与えられるという約束を疑わずに信じたが、神がご自身の時と方法によって、みことばを成就なさるのを待たなかった。神の力にたよる彼の信仰をためすために、神は、約束の成就が遅れるのを許された。しかし、アブラハムはこの試練に耐えられなかった。サラは年をとっていたので、子供が与えられることは不可能だと考え、神のみこころが成就する計画として、彼女の侍女のひとりをアブラハムが第二の妻としてめとるように提案した。当時、一夫多妻は広く行なわれていたので罪だとは思われなくなっていた。しかしそれが、神の律法に違反することはまちがいなく、家族関係の神聖さと平和にとって致命的であった。アブラハムとハガルとの結婚は、彼ら自身の家庭だけにとどまらず将来の世代にまでも悪い結果をもたらした。」（人類のあけぼの上巻 150）

「アブラハムとサラの信仰が欠けていたために、イシマエルが生まれ、義人の種族が神を敬わない者と混じった。…

彼は、粗暴で略奪を事とするさばくの酋長の生活にはいってしまったのである。……彼の子孫は強大な国民となったが、それは、粗暴な異邦の民族で、常にイサクの子孫を悩まし苦しめるものとなった。」（同上 185）

2.　　約束による自由な女

a.　アブラハムとサラが、息子についての神の約束を完全に信頼したとき、何が起こりましたか。それはなぜでしたか（創世記 18:11–14; 21:1, 2; ヘブル人への手紙 11:11）。

b.　年老いたサラが子を産んだ奇跡のように、信仰の子らの手に届く奇跡的な特権を述べなさい（ガラテヤ人への手紙 4:26–28）。

「キリストは最も罪深い者を堕落の穴から引き出し、彼らを神の子、すなわち不死の嗣業をつぐキリストとの相続人として認められるところへ置くことがおできになる。

多くの人々はまったく失望している。彼らはさげすまれ、捨てられてきたため、感情を表に出さなくなってしまった。彼らはキリストの福音を理解したり、受け入れたりすることができないものとみなされている。しかし、神の恵みの奇跡によって、彼らは変わることができる。聖霊の働きの下、彼らが引き上げられることはまったく見込みがないように見せていた愚かさは過ぎ去る。鈍く曇っていた頭脳が目覚める。罪の奴隷が自由にされる。霊的な命がよみがえり、強められる。悪徳が消え、無知は克服される。愛によって働く信仰を通して、心はきよめられ、頭脳は啓発される。」（教会への証 7 巻 229）

c.　なぜハガルとイシマエルは、アブラハムの家から完全に出されなければならなかったのですか。またこのことから、わたしたちが学ぶことのできるいくつかの深い霊的な教訓は何ですか（創世記 21:9–12; ガラテヤ人への手紙 4:29–31; ローマ人への手紙 13:12）。

「もし神が、一夫多妻主義を認めておられたら、このようにハガルと息子を家から出せというようなことは命じられなかったにちがいない。神はこのことを通して、結婚関係の権利と幸福はどんなに大きな犠牲を払っても尊重され、守られなければならないという教訓をすべての人に教えようとなさったのだ。サラは、アブラハムの第一のそしてただひとりの真の妻だった。彼女は妻として、また母としての権利をさずけられる資格をもち、家族の中でこの権利は彼女のほかにはだれも持つことのできないものだった。彼女は夫を敬い、彼を主人と呼んだが、夫の愛情がハガルに分けられないように心づかいをした。神はサラのとった手段をおしかりにならなかった。アブラハムは、神の能力を信じないで、ハガルを妻とし、彼女を通して、約束が成就されると考えたことについて、天使からしかられた。」（生き残る人々 96, 97）

3.　救出

a.　パウロはどのようにキリストを通して救出を受け入れるよう、わたしたちを招いていますか（ガラテヤ人への手紙 5:1）。

「キリストを信じ、このお方の戒めに従う人々は神の律法のくびきの下にはいない。なぜなら、信じて従う者にとって、このお方の律法は、奴隷のくびきの律法ではなく、自由の律法だからである。キリストを信じるすべての人、違反者に宣告された刑罰に苦しまれた、よみがえられた救い主の守る力に頼るすべての人、誘惑に抵抗し、悪のただなかで、キリストの生涯のうちに与えられた型を模倣するすべての人は、キリストの贖罪の犠牲を信じる信仰を通して、世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となる。信仰によって神の戒めに従うすべての人は、アダムがその違反の前に生きていた罪のない状態に到達するのである。」（天国で 146）

b.　パウロはわたしたちの焦点を維持し、また記されていることを越えることによって生じる不一致を避けるように、どの訴えをしましたか（ガラテヤ人への手紙 5:2–4）。

「ユダヤ人の教師たちは…キリスト教への改心者たちが、割礼についての礼典律を守るべきだと強く迫った。彼らはなお、もともとのイスラエルがアブラハムの高められ特権を受けた子らであり、彼に与えられたすべての約束の資格があると言い張った。彼らは心からユダヤ人とクリスチャンの間のこの中間の立場をとることによって、キリスト教に付随した汚名を取り除き、ユダヤ人の多くの人々を集めるのに成功すると考えた。

彼らは、割礼のない異邦人たちを教会の中に受け入れることにおいて使徒がとった行動が、異邦人からの加入よりも多くのユダヤ人が信仰を受け入れるのを妨げたと示すことによって、パウロの立場に反対する立場、すなわち自分たちの立場を擁護した。こうして、彼らは神のお認めになった僕たちが静かに協議した結果に自分たちが反対することを弁解した。彼らはキリストの働きは、全世界を含んでいることを認めることを拒んだ。彼らはこのお方がヘブル人だけの救い主であると主張した。そのために彼らは異邦人たちがキリストの教会の特権を許される前に割礼を受けるべきだと言い張ったのである。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1110）

4.　　誤解された信仰

a.　パウロの謙遜で忠実な立場を、何が要約していますか（ガラテヤ人への手紙 5:5）。

「あなたの事情を主に委ね、このお方のみ言葉を信じなさい。信じなさい、ああ、主のみ言葉を信じなさい。そして見えるものによってではなく、信仰によって歩みなさい。自らをあらたに神に捧げなさい。『主はこう言われる』に忠実で、真実でありなさい。そしてキリストがあなたを自由にしてくださった自由のうちに固く立っていなさい。」（上を仰いで 337）

b.　ガラテヤでも他の場所でも、教会内で異議を唱える人々から、使徒はしばしばどのように誤解されましたか（ガラテヤ人への手紙 5:7–12; コリント人への第一の手紙 1:10–13）。

「〔エルサレムにおける弟子たちの〕会議は、…ユダヤ教会からの改心者たちは、もし彼らが選ぶならモーセの律法の儀式を守ることができたが、その一方異邦人からの改心者たちの義務とすべきでないことが決定されていた。反対する階級はこのことを利用して、礼典律を守る人々と守らない人々の間の区別を呼びかけ、後者を前者よりも神から遠いとみなした。

パウロの義憤がかきたてられた。彼の声が厳しい譴責のうちにあがった。『もし割礼を受けるなら、キリストはあなたがたに用のないものになろう』。キリスト教は割礼がなければ価値がないと言い張る側は、使徒に対してそろって敵対した。そして彼は彼が建てたり訪問したりしたすべての教会で彼らに直面しなければならなかった。エルサレム、アンテオケ、ガラテヤ、コリント、エペソ、そしてローマにおいて。神は彼にキリスト、しかも十字架につけられたキリストを宣布する偉大な働きへと出ていかせられた。割礼があってもなくても無意味であった。ユダヤ人の一団は、パウロを背教者とみなし、神がイスラエル人と世の間に設立された区別の壁を打ち壊す決意をしているものと考えた。彼らはパウロが建てたすべての教会に訪れ、分裂を生じさせた。目的は手段を正当化すると言い張り、彼らは使徒に対する偽りの告発をふれてまわり、彼の信頼を失墜させようと奮闘した。パウロが、諸教会を訪問し、これらの熱心で不謹慎な反対者たちのあとに続くと、彼を不信感を持ってみる多くの人々に出会った。そしてある者は彼の働きを軽蔑さえするのであった。

礼典律とキリストの教理を教える様々な牧師の優劣に関するこれらの分裂は、使徒に多くの苦悩と大変な働きをもたらした。〔コリント第一 1:10-13 引用〕。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]1 巻 6 巻 1111）

木曜日 *11月25日*

5.　　どちらの種類の行動か？

a.　礼典律と割礼は、昔のヘブルの秩序において目的をもって与えられていた一方、キリストを永遠の命の唯一の源として受け入れるすべての人は、何を悟るべきですか（ガラテヤ人への手紙 5:6）。

「本物の信仰はいつも愛によって働く。あなたがカルバリーを見るとき、義務を行わずに、自分の魂を静めることはない。自らを眠るように落ち着かせるのではなく、イエスを信じる信仰、利己心というへどろから魂をきよめ、働く信仰を創造するのである。わたしたちは信仰によってキリストをつかむとき、わたしたちの働きは始まったばかりである。すべての人は激しい戦いによって打ち勝たなければならない堕落した罪深い習慣を持っている。すべての魂は、信仰の戦いを戦うように要求されている。もしだれかがキリストに従う人であるなら、彼は取引において抜け目なくあることはできない。彼は同情心のない心のかたくななものとなることはできない。彼は言葉において激しいものになることができない。

愛の働きは信仰の行いから生じる。聖書の宗教は絶えず働くことを意味する。『そのようにあなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよい行いを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。』『恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい。あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起こさせ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。』わたしたちはよい行いに熱心であるべきであり、よい行いを維持するよう注意すべきである。そしてまことの証人は言われる、『わたしはあなたのわざを知っている』。

わたしたちの忙しい活動がわたしたちのうちに救いを確保するのではないことは確かであるが、わたしたちをキリストに結びつける信仰が魂を活動へとかきたてることもまた真実である。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1111）

金曜日 *11月26日*

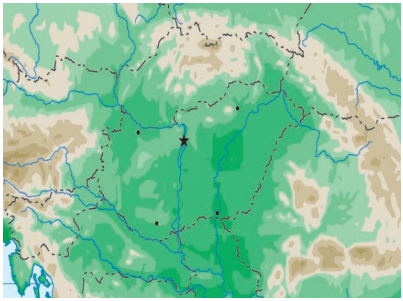
個人的な復習問題

1. **わたしたちはハガルがアブラハムに子を産んだ時と同じような過ちをどのように犯しますか。**
2. **アブラハムとサラがもっと神に信頼したときに、どの祝福と義務がもたらされましたか。**
3. **わたしたちはどのように、できればもっと多くの改心者を得ようと、神が記されたものを足したり引いたりする危険にいるかもしれませんか。そしてなぜそれがしてはいけないことなのですか。**
4. **どの方法において、わたしは救いと関係のない問題をめぐって意見の相違を生じさせているかもしれませんか。**
5. **何がわたしが生活においてなすすべてのことの背後にある本当の動機づけとなる必要がありますか。**

安息日 2021 年 12 月 4 日

第一安息日献金
ハンガリー、センテシの教会建設のために

ハンガリーは多文化のヨーロッパ大陸にある 50 国のうちの一つです。改革運動の歴史において、ハンガリーは重要な役割を果たしました。1915 年までに状況がヨーロッパで発展し、改革運動はこの国から広まっていきました。第四回世界総会会議もまた、1934 年にここで開催されました。第二次世界大戦中、わたしたちの兄弟たちは甚だしく苦しみ、ある者は信仰のために自分の命を捨てました。



わたしたちの教会員の数は増え、多くの先駆者たちの努力のおかげで、わたしたちにはこの国に 5 つの教会の建物があります。過去、わたしたちは第一安息日学校献金を通して教会を修繕することができました。そしてこの惜しみない献金のために世界中の兄弟たちに感謝しています。

ここハンガリーにおけるわたしたちの最大の問題の一つは、わたしたちの一般教会員に二つの世代が欠けていることです。そのため、教会の建物の管理と修繕を行う重荷は大きすぎ、わたしたちの能力を超えています。神の恵みによって、わたしたちはこれらの重荷を次世代に引き渡すことを避けたいと願っています。その代わりに彼らが自分たちのすべての資金と能力をこの国における伝道の働きに向けて投資できるように助けたいのです。

教会の建物の一つで最も修繕を必要としているのは、センテシにあるもので、そこにはあらゆる年代のすべての伝道活動に熱心な 15 人の教会員と多くの青年たちがいます。この建物は古い技術で建てられたもので、小さいです。建物を修繕するだけでなく、近代化し、拡張する必要があります。あるいは、もしかしたら新しいものを購入するか建設する必要があります。わたしたちに何ができるかは皆さんの惜しみない心にかかっています。

「山腹から流れる小川を見てみなさい。乾いた地を通りながら活気づけていく。それはなんという祝福をもたらすことであろう！ある人はそれほど惜しみなく捧げていては、資金が尽きてしまうと思うかもしれない。しかし、そうではない。捧げる小川は決して不足しないというのが、神の偉大なご計画の一部である。そして日々、年々、それはその道を流れていき、つねに受けては、つねに与えるのである。」（今日のわたしの生涯 223）

神様の祝福が皆さんの上にありますように。そして皆さんの献金が神によって 10 倍にも戻るよう信じています。

ハンガリーミッション・フィールドから皆さんの兄弟姉妹より

御霊によって歩む

暗唱聖句：「わたしは命じる、御霊によって歩きなさい。そうすれば、決して肉の欲を満たすことはない。」（ガラテヤ人への手紙 5:16）

「もしわたしたちがみなカルバリーの人の御足の跡を歩んでいるなら、わたしたちの誇り高い心はキリストの恵みによって征服されることであろう。兄弟たちの間に争いはなく、思いのへりくだりのうちに互いを自分よりもすぐれたものと考えるであろう。あなたがたの互いの愛は、優しい言葉や行為のうちに表現されるであろう。そしてこの冷たいかたくなな心は、イエスの愛によって溶かし去られるであろう。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1888 年 3 月 9 日）

推奨文献：　教会への証 1 巻 612–620

日曜日　*11 月 28 日*

1.　奉仕への召し

a.　単なる宗教の公言とは対照的に、わたしたちが自分の心に真実、神の律法を書いていただいているという最も強力な証拠は何ですか（ガラテヤ人への手紙 5:13, 14; マタイによる福音書 5:43–48）。

「律法的宗教は、魂を神と調和させるのに不十分である。悔い改めもやさしさも愛もない、堅く厳格なパリサイ人の伝統的宗教は、罪びとのつまずきの石となるだけであった。彼らは味を失った塩のようなものであった。彼らは世を腐敗から防ぐ力を持っていなかった。唯一のまことの信仰は、『愛によって働』き魂をきよめる信仰である（ガラテヤ 5:6）。それは品性を改変するパ ン種のようなものである。」（祝福の山 66, 67）

「信仰は愛によって働き、魂をきよめる。信仰のあるところにはそれに相応する従順がありキリストのみことばの忠実な実行が伴う。キリスト教はいつも非常に実際的であって、実生活のあらゆる境遇に適用される。『あなたがたはわが証人である』（イザヤ書 43:12）。だれに対してであろうか。世の人々に対してである。自分の周囲に聖なる感化を与えねばならない。キリストがあなたの魂のうちに住み、あなたはキリストについて語り、キリストの美しいご品性をあらわさねばならない。」（青年への使命 196）

2.　　わたしたち自身の態度を見張る

a.　厳しい言葉で他人を批判する悪習慣に対して、どの警告が与えられていますか。またなぜそれが起こるのですか（ガラテヤ人への手紙 5:15; 詩篇 59:12）。

「自己はいつも自分自身について高い評価を抱いている。人が自分のはじめの愛を失うとき、神の戒めを守らない。その後、他人を批判し始める。この精神は時の終わりに向かって勝利しようと絶えず奮闘する。サタンは兄弟たちが無知のうちに互いをむさぼり喰うことを求めるように、この精神を助長しようとしている。

サタンはもし兄弟たちが教会にいる、また牧会にいる兄弟を見張るようにさせることができれば、ある人々は心くじけて落胆し、自分の義務の立場を離れるようになることを知っているため、勝ち誇る。これは聖霊の働きではない。下からの力が思いと魂の宮の中で、キリストの特質があるべきところに自分の特質を置くために働いているのである。」（思いと品性と個性 2 巻 636, 637）

b.　わたしたちはどのように不和を生じさせる根―不親切な思想―から救出されることができますか（エペソ人への手紙 5:8; コロサイ人への手紙 3:12–15）。

「クリスチャンだと公言するすべての人は自分の心をキリストの御霊とキリストの恵みに開こう。そのとき、キリストの平安が彼らの心を支配し、彼らの品性には、不一致、争い、対抗心、互いにかみあい食い合うこと、最高位を求めることがないことが表れるようになる。キリストの命を生きるために、大いなる熱心な努力が払われるようになる。わたしたちはどんな場合にも悪を行うわたしたちの例にだれひとり倣うことがないように、このお方の憐れみの精神を表さなければならない。

イエスは礼儀正しく、慈愛に満ちたお方であった。このお方は、絶対的に、都合やいかなる利己的な関心も問うことなく、御父のすべての戒めに従順であられた。」（この日を神と共に 207）

「光のうちを歩むことは、品性のうるわしさのうちにキリストを表そうと真剣な努力を払うことにおいて、決意し、思想を働かせ、意志力を発揮することを意味する。それはあらゆる憂うつを一掃することを意味する。あなたは単純に、『わたしは神の子である』と言うことで満足し、休息してはならない。あなたはイエスを眺めているであろうか。そして眺めることによって、このお方のみすがたに変えられているであろうか。光のうちを歩むということは、霊的な習得において、進歩し向上することを意味する。…

わたしたち自身に陰と憂うつを持ち込むことによって他の人の道を暗くするとは、なんと恐るべきことであろう！各自、自分自身に注意を払いなさい。自分の品性の欠点を他人のせいにしてはならない。」（神の息子むすめたち 200）

3. もし不親切に扱われたら…

a. 各時代のクリスチャンたちは、パウロの時代に起きた深刻な悪に対して、どのように警告されていますか（コリント人への第一の手紙 6:1–8）。

「〔パウロには〕あなたがかつて経験したことがないほど、そしてこれからも耐えるように要求されることがないほどの試練があったが、なおこれらから顔をそむけることはなかった。彼はそれらをくよくよと考えることなく、神の恵みを大いなるものとした。」（思い、品性、個性 2 巻 461）

「教会の中に問題が生じたときに、わたしたちは自分たちの信仰を持たない弁護士に助けを求めに行くべきではない。神はわたしたちがご自分を恐れない人々の前に、教会の困難を公にすることを望まれない。このお方はわたしたちがご自分の要求に従わない人々に助けを求めて頼ることを望まれない。このような勧告者に信頼する人々は、神を信じる信仰を持っていない。彼らの信仰の欠如によって、主は大いに辱められる。そして彼らのとる道は、彼ら自身に大きな害をなす。教会の中の困難を解決するために不信者に訴えることによって、彼らは互いにかみあい食い合って、『互に滅ぼされてしまうだろう』（ガラテヤ 5:15）。

これらの人々は神が与えてこられた勧告をわきへ捨て、このお方がまさにしてはならないとお命じになったことをする。彼らは自分の裁判官として世を選んだことを示し、天では彼らの名が不信者として登録される。キリストはあらたに十字架につけられ、あからさまな恥辱を受けられる。これらの人々は神が彼らの祈りをお聞きになることはないことを知りなさい。彼らはこのお方の聖なるみ名を侮辱するので、神は彼らが自分たちの愚かさを認め、自分たちの罪を告白することによって主を求めるまで、彼らがサタンに打たれるままになさる。

教会に関わる問題は、わたしたち自身の境界線内にとどめおかれるべきである。もしクリスチャンが虐待されるなら、それを忍耐強く受けるべきである。もしだまし取られたなら、法廷に訴えてはならない。むしろ損失と悪に甘んじさせなさい。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 3 巻 299, 300）

b. もし不公正にあるいは不親切に、教会の中で悪い取り扱いを受けたとき、わたしたちは何を心にとめている必要がありますか（ローマ人への手紙 12:19; ヘブル人への手紙 12:14, 15）。

「神は自分の兄弟や神のみ事業をあざむき奪う価値のない教会員を対処なさるであろう。クリスチャンは自分の権利のために争う必要はない。神がこれらの権利を侵す人を対処なさる。〔ローマ 12:19 引用〕。すべてこれらの問題は台帳に記録されており、すべてのことを主はご自分が報復すると宣言しておられる。」（同上 300）

「敵意の根をすべて取り除きなさい。」（教会への証 5 巻 241）

4. 勝利のための基礎

a. クリスチャンの聖化のはしごにおいて、忍耐の前に何が来ますか。それはなぜですか（ペテロの第二の手紙 1:3–7）。

「不摂生な人は忍耐強い人になることはできない。不摂生になるためにアルコール酒を飲む必要はない。不摂生に食べる罪、すなわち、頻繁に食べること、食べ過ぎること、また濃厚で不健康な食物の罪は、消化器官の健全な働きを損ない、頭脳に影響し、判断力をゆがめ、理性的に落ち着いて健全に考え、行動することを妨げる。そしてこれが教会の試練を多く産出する源である。であるから、神の民が、神に受け入れられる状態にあるためには、すなわち神のものである自分たちの体と霊とをもってこのお方に栄光を帰すことができるためには、関心と熱心さをもって、自分の食欲を満たすことを否定し、万事について節制を働かせなければならない。」（教会への証 1 巻 618, 619）

b. パウロはこの分野における勝利の鍵を、どのように要約しましたか（ガラテヤ人への手紙 5:16）。

「わたしたちは自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけるようにと命じられている。どのようにであろうか？自分の体に痛みを与えることによってであろうか。否、そうではなく、罪に対する誘惑を死に至らせなさい。堕落した思想は追い払わなければならない。すべての思想はイエス・キリストにとりこにされるべきである。すべての動物的な傾向は、魂のより高い力に従わせられなければならない。神の愛が最上位に君臨しなければならない。キリストが分割されていない御座を占めておられなければならない。わたしたちの体は、このお方が買われた所有物としてみなされるべきである。…

ダニエルとその友だちの経験において、わたしたちには食欲にふける誘惑に対する原則の勝利という模範がある。それはわたしたちに宗教的な原則を通して、青年が肉の欲に勝利し、神のご要求に真実であり続けることが、たとえ大変な犠牲を要求するものであってもできることを示している。…

わたしたちは自分の兄弟たちに、神の憐れみによって、彼らのからだを『神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物』として捧げるようにと訴えた使徒の言葉を考えるべきである。これが真の聖化である。それは単なる理論でも、感情でも、言葉の形式でもなく、生きた活動的な原則であり、毎日の生活に入りこむものである。それはわたしたちの飲食や着衣の習慣が、身体的、精神的、道徳的な健康維持を確かにするようなものであることを要求する。こうしてわたしたちが自分のからだを―悪習慣によって堕落した捧げ物ではなく―『神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物』として捧げることができるためである。」（キリストを映して 144）

木曜日 *12月2日*

5.　　み霊の導きに注意を払う

a.　ガラテヤにおける不和を扱うパウロの方法を導いたキリストの諸原則から、わたしたちは何を学ぶことができますか（マタイによる福音書 5:23, 24; 13:27–29）。

「偽教師たちがガラテヤに、キリストの福音に反する教理をもたらした。パウロはこれらの誤謬を暴露し、正そうと努めた。彼らは偽教師たちが教会から去ることを非常に願ったが、彼らの感化力は信徒の非常に多くの人に影響を与えたので、彼らに対して行動を起こすことは危険を伴うように見えた。教会の霊的な利益にとって壊滅的な紛争や不和を生じさせる危険があった。そこで彼は自分の兄弟たちに愛のうちに互いを助けようとする重要性を印象づけようと努めた。彼は自分たちの同胞に対する義務として律法の要求が明らかにしている全てのことは、互いに愛することによって成就するのだと宣言した。彼はもし憎しみや紛争、分派にわかれること、また動物のように互いにかみあい、食い合うなら、自らの上に現在の不幸をもたらし、将来の破滅を来たらせることになると警告した。これらの恐ろしい悪を防止する方法は一つしかなく、それは使徒が彼らに課したように、『御霊によって歩』くことである。彼らは絶えざる祈りによって、聖霊の導きを求めなければならない。聖霊は彼らを愛と一致へ導いてくださるのである。」（教会への証 5 巻 243）

「わが兄弟、わが姉妹よ、問題があなたがたと他の神の家族とのあいだに生じるとき、あなたは聖書の指示に従うであろうか。神に自分の祈りの捧げものを提示する前に、あなたは自分の兄弟の許へ行き、キリストの精神のうちに彼と語るであろうか。…〔マタイ 5:23, 24 引用〕。そのあと、あなたはきよい良心をもって捧げることができる。なぜなら、あなたは敵意の根を抜き去ったからである。」（世界総会冊子 1903 年 4 月 1 日）

金曜日 *12月3日*

個人的な復習問題

1.　神の律法は、この現代の世代でさえ、どのように日常生活において成就しますか。
2.　霊感を受けた使徒は、何が完全のきずなであると宣言しましたか。
3.　他人に対する敵意の根をひそかに抱くことを避けるのが、なぜ重要なのですか。
4.　食欲における自制は、どのようによりよい関係を促進しますか。
5.　わたしは難しいと見える人々と、どのようにより大きな調和をはぐくむことができますか。

肉対霊

暗唱聖句：「キリスト・イエスに属する者は、自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけてしまったのである。」（ガラテヤ人への手紙 5:24）

「神のみ言葉の中で示されている救いの条件は合理的で、簡潔で、明確であり、神のみこころへの完全な一致と、心と生活の純潔にほかならない。わたしたちは自己をその欲と共に十字架につけなければならない。肉と霊の一切の汚れから自らをきよめ、神を恐れて聖潔を完成しなければならない。」（教会への証 1 巻 440）

推奨文献：　教会への証 2 巻 133-136

日曜日　*12 月 5 日*

1.　苦闘

a.　完全に絶えずキリストに明け渡すことによって、罪の宣告からの救出を必要としている生来の人間の心の苦闘を述べなさい（ガラテヤ人への手紙 5:17, 18）。

「キリストに対するわたしたちの愛は、わたしたちが罪を自覚している深さに比例する。そして律法によって罪を知るのである。しかし、わたしたちが自らを見るとき、目を離してイエスへ向けよう。このお方はわたしたちがあらゆる悪からあがなわれるようにわたしたちのためにご自身を捧げて下さったのである。信仰によって、キリストの功績をつかみなさい。そのとき魂をきよめる血潮が塗られる。わたしたちがさらされていた悪と危険をはっきり認めれば認めるほど、キリストを通しての救出にますます感謝するのである。キリストの福音は人に律法を犯す許可を与えることはしない。なぜなら、不法を通して、苦悩の水門が、わたしたちの世に開かれたからである。」（信仰と行い 96）

「聖化は日ごとの働きである。だれひとり神のご要求の一つでも踏みにじりながら、このお方が自分たちを許し、祝福してくださると信じて自らを欺くことがないようにしよう。知っている罪をあえて犯すことは、聖霊の証言の声を静め、魂を神から引き離す。宗教的な感情がどのように恍惚としたものであろうと、イエスは神聖な律法を無視する心にお宿りになることはできない。神はご自分を尊ぶ人たちだけを尊ぶのである。」（きよめられた生活 92）

2.　　肉の働き

a.　パウロによって述べられている肉の働きをあげなさい。またなぜ、それらに対して真剣に警告される必要があるのかを説明しなさい（ガラテヤ人への手紙 5:19–21）。

「〔キリスト〕は罪を負い、天父のみ顔を隠されて見ることができず、ついに、キリストの心臓は破裂し、その生命は砕かれたのである。…そしてこのような値を払って備えられた贖いにあずかることを拒否する者は、犯した罪の刑罰を自分の身に負わなければならない。」（各時代の大争闘下巻 289）

b.　なぜ姦淫（既婚者が妻でない女と、あるいは夫でない男と性的な関係を持つこと）は、なぜ神の律法を犯すことなのですか（出エジプト記 20:14; ヘブル人への手紙 13:4）。

c.　わたしたちは不品行（姦淫と似ているが、未婚の人との関わり）について、また不品行に導く不潔や好色について、何を悟らなければなりませんか（コリント人への第一の手紙 6:18; マタイによる福音書 5:27, 28）。

「かつて死すべき人間に委ねられた中で最も厳粛なメッセージがこの民に委ねられてきた。そして彼らはもしそのメッセージによって聖化されるなら、強力な感化を持つことができる。彼らは永遠の真理という高められた土台の上に立ち、神の戒めをみな守っていると公言する。そのため、もし彼らが罪にふけるなら、もし彼らが不品行や姦淫を犯すなら、彼らの犯罪は、わたしがあげてきた階級の人々、すなわち神の律法が自分たちに拘束力を持つことを認めない人々の犯罪よりも十倍も大きいのである。」（教会への証 2 巻 450, 451）

「〔第七条の〕この戒めは、不純な行為だけでなく、好色的な思いや欲望、あるいは、そうしたものを刺激する行為を禁止している。外にあらわれた生活だけでなく、ひそかな意図や心の感情においても、純潔が要求される。」（人類のあけぼの上巻 360）

d.　神はわたしたちが勝利するようにどのように助けたいと望んでおられますか（マタイによる福音書 5:8; 詩篇 51:5–7, 10）。

「心が清くされるのはみたまによってである。」（各時代の希望下巻 157）

3.　　肉の働き（続）

a.　何かを偶像化することは何がいけないのですか（出エジプト記 20:1–6）。

「彼が、偶像礼拝と言ったのは、ただ偶像を拝むことだけでなくて、自己の利益を追求し、安楽を愛し、食欲と情欲をほしいままにすることをも意味していた。単に、キリストに対する信仰を表明し、真理の知識を誇るだけで、人はクリスチャンとなるのではない。目や耳や嗜好を満足させることのみを求め、放縦を是認する宗教は、キリストの宗教ではない。」（患難から栄光へ上巻 341）

b.　神がいつもあらゆる種類の口よせや占いをどれほど憎んでおられるかについて、わたしたちは何を悟らなければなりませんか（出エジプト記 22:18; マラキ書 3:5; ヨハネの黙示録 21:8）。

「口よせという名称そのものは、今日では軽蔑されている。人が悪霊と交わることができるという主張は、暗黒時代の作り話だと考えられている。しかし心霊術は、幾十万、いや幾百万の信者を持ち、科学者たちの仲間にも入り込み、諸教会に侵入し、議会の行為を得、王室にまでも侵入しているこの巨大な欺瞞は、昔罪とされ、禁じられていた口よせが、新しく変装して復活したものにすぎないのである。」（各時代の大争闘下巻 310, 311）

c.　なぜ、憎しみ、争い（不和）、そねみ（競争からおこる優位を求める熱烈な願望）、怒り、党派心、分裂、分派（不満や反逆をかきたてること）、ねたみ、殺人は、それほど邪悪なのですか（ヨハネの第一の手紙 3:15）。

d.　どのような強い言葉で、キリストは異端（「主はこう言われる」に反する教理）を厳しく非難されましたか（マタイによる福音書 15:9; ヨハネによる福音書 8:44）。

e.　どのような種類の出来事に、泥酔と反逆が伴いますか（ダニエル書 5:1–6, 26–28, 30; マタイによる福音書 14:6–11）。

4.　御霊の実

a.　肉の働きとは対照的に、パウロは何を御霊の実として明らかにしましたか。そしてわたしたちはなぜ、よりたやすくもたらされる実を摘んで選ぶことができないのですか（ガラテヤ人への手紙 5:22, 23）。

「信仰によって神のみ子を常食とするとき、みたまの実は われわれの生活の中に見られ、一つとして失われることはない。」（各時代の希望下巻 165）

b.　ここに引用されている実は、どのような種類の「愛」ですか（コリント人への第一の手紙 13:4–8, 13）。

「口先で、どんなに立派なことを言っても、もし心の中に、神と同胞に対する愛が満ちていなければ、キリストの真の弟子ではない。」（患難から栄光へ上巻 343）

c.　ここで引用されている実は、どのような種類の「喜び」ですか（詩篇 51:12; ヨハネによる福音書 15:10, 11; ヘブル人への手紙 12:2）。

「よみがえるべき魂がいる。多くの者が自分自身の魂のうちに救いの喜びを受けなければならない。彼らは過ちを犯した。彼らは正しい品性を築いてこなかった。しかし、神は彼らを回復なさる喜び、しかも油注がれた者の喜びを持っておられる。」（上を仰いで 287）

d.　なぜ真の平安が必要とされているのですか。そしてそれをどのように得ることができますか（ローマ人への手紙 5:1; ヨハネによる福音書 14:27）。

「『いったい、キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける』（テモテ第二 3:12）。しかし、これによって魂がおびえるべきではない。罪が許されたという証拠ほど魂に日光をもたらすことができるものがあるだろうか。もし人のうちに神の道徳的なみかたちを回復することでなければ、何が真の高潔さを与えられるだろうか。もし平和の君からでなければ、どこから平和が来るであろうか。助けを求めてどの源を見ることができるだろうか、わたしたちに闇のただなかで光を与えることがおできになる方以外に。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1899 年 2 月 28 日）

「〔イエスの〕前におかれていた喜びは、ご自分の栄光、誉、富、ご自身の命の犠牲によって贖われた魂を見ることであった。人の救いがこのお方の喜びである。」（教会への証 2 巻 686）

木曜日 *12月9日*

5.　　御霊の実（続）

a.　なぜ寛容（忍耐）は、それほど価値があるのですか（ルカによる福音書 21:19; ヘブル人への手紙 10:36; ヨハネの黙示録 14:12）。

「死別や苦しみの時に忍耐と快活さをあらわし、平安で穏やかなゆるがない信仰をもって、死そのものにさえも向かうクリスチャンは、忠実に働いて長い一生になし遂げることができる以上のことを、福音のためにすることができる。」（患難から栄光へ下巻 157）

b.　なぜ、慈愛、善意、信仰、自制はみな、クリスチャンにとって重要不可欠なのですか（詩篇 18:35; ルカによる福音書 7:50; ピリピ人への手紙 4:5）。

c.　わたしたちは柔和について何を悟らなければなりませんか。またどのようにしてのみ、御霊の完全な実を表すことができますか（マタイによる福音書 5:5; ガラテヤ人への手紙 5:24; ペテロの第一の手紙 2:21–24）。

「柔和は尊い恵みであって、みずから静かに苦しみをしのび、試練に耐える。柔和は忍耐強く、あらゆる環境下で幸せになろうと労する。柔和はいつも感謝し、幸福を自分自身の歌とし、心の中で神に旋律を奏でる。柔和は失望や悪を耐え、復讐しようとしない。」（教会への証 3 巻 335）

「わたしたちのあがない主イエスは、この地上を、王の威厳をもって歩かれたが、柔和で心の低いおかたであった。」（家庭の教育 136）

金曜日 *12月10日*

個人的な復習問題

1.　わたしたちは神の律法に従うことによって救われるのではありませんが、それについて何を悟らなければなりませんか。
2.　結婚に関する神の律法を犯す放縦の代価は何ですか。
3.　現代の心霊術やオカルトをかじる代価は何ですか。
4.　愛、喜び、キリストの平和は、世の偽ものと、どのように対照的ですか。
5.　御霊の完全な実を発達させるために、どこを見るべきですか。

弱さや不正が見られるとき

暗唱聖句：「もしわたしたちが御霊によって生きるのなら、また御霊によって進もうではないか。互にいどみ合い、互にねたみ合って、虚栄に生きてはならない。」（ガラテヤ人への手紙 5:25, 26）

「わたしたちは兄弟たちのために熱心になるあまり、この熱心さのうちに自分自身のためになされる必要のある働きをなおざりにしなくてもよい。他人の不正は、わたしたちの実情を少しも正しいほうへ近づけはしない。」（この日を神と共に 83）

推奨文献：　教会への証 2 巻 50–55;
同上 3 巻 93, 94;
同上 5 巻 246–248, 603–613

日曜日　*12 月 12 日*

1.　わたしたち自身と他人

a.　パウロは時をこえた訴えを、わたしたちの時代にまで、どのようにこだまさせていますか（ガラテヤ人への手紙 5:25, 26）。

「霊的でない人は、しばしば神の真の子らの熱心さをはるかに越えた熱心さを表す。これは彼らが自分たちの方法と自分たちの計画を成功させようと決めているからである。彼らは自らに、わたしは自分の存在のすべての力を尽くして、この計画に入れ込み、これが成功するまで絶えず働く。わたしは自分が成功するまでやり抜く。しかし、人が持つすべての宗教はしばしば、人がキリストのようなあり方だと考えているこの野心的な熱心さのうちに見いだされる。これを取り去ると、何も残らないのである。彼らははっか、いのんど、クミンなどの什一を払いながら、律法の中でもっと重要な、公平とあわれみと神の愛を見のがしているパリサイ人のようである。」（ｴﾚﾝ・G・ﾎﾜｲﾄ 1888 年原稿 1374, 1375）

「キリストから学びたい者は皆、人間の知恵を空にしなければならない。魂はすべての虚栄、誇りからきよめられて、先入観のうちに魂をとらえてきたすべてのものが空にされなければならない。そしてキリストに心の中で王位についていただかなければならない。魂の中で利己心と自己満足の結果生じる絶えざる紛争は戒められなければならない。そしてへりくだりと柔和が、わたしたちの生来の自己評価にとって代わらなければならない。」（説教と講和 1 巻 271, 272）

2.　　神の方法を学ぶ

a.　時にほとんどすべての人は、どの種類の経験に直面しますか（詩篇 69:5, 16–19）。

「あなたの心配事や試練が何であろうと、主の前に事情をうち明けなさい。あなたの心には忍耐のささえができる。あなたが困惑や困難からぬけ出す道が開かれる。」（各時代の希望中巻 49）

b.　この現実を心に覚えて、過ちを犯した人に関して、わたしたちがどのようにことを進めるべきかを述べなさい（ガラテヤ人への手紙 6:1; マタイによる福音書 18:15）。

「もしあなたが自分の隣人や友人が不正を行い、自分自身の心を傷つけているために悲しんでいるなら、もし彼らが過ちにとらわれているなら、聖書の規則に従いなさい。『もしあなたの兄弟が罪を犯すなら、行って、彼とふたりだけの所で忠告しなさい』（マタイ 18:15）。あなたが過ちを犯していると思われる人のところへ行き、あなたが柔和でへりくだった精神で語ることを確かめなさい。人の怒りは、神の義を全うするものではないからである。過ちを犯している人は柔和、親切、そして優しい愛の精神のうちにあってはじめて回復されるからである。あなたのやり方に注意しなさい。まなざしやしぐさ、言葉や口調に、誇りや自己満足のにおいがするものは避けなさい。自分自身を高めるような言葉やまなざしに対して、自らを見張りなさい。あるいは自分の善や義を、彼らの失敗と対照的におくことがないように気をつけなさい。みくびったり、圧倒したり、あるいは軽蔑したりするための最も冷ややかな近づき方に気をつけなさい。注意をもって、あらゆる怒りの様子を避けなさい。そしてあなたが言葉の率直さを用いたとしても、非難、罵りの告発、熱烈な愛の暖かみ以外の熱情のしるしがないようにしなさい。なによりも、憎しみ、悪意の影、敵意や不機嫌の表現がないようにしなさい。愛の心からは、親切と優しさ以外が流れることはない。それでいながら、すべてこれらの尊い実によって、あなたが最も深刻で厳粛な方法で、あたかも天使たちがあなたに目を向けているかのように語り、またあなたが来たるべきさばきに関連して行動することを妨げられることはない。譴責が功を奏するかは、それが与えられる精神に大いにかかっていることを心にとめていなさい。あなたがへりくだった思いを持つことができるように、そして神の御使たちが前に行って、あなたが手を差し伸べようとしている人々の心に働き、あなたの努力が役立つよう天来の印象によって彼らを和らげてくれるように、熱心な祈りをなおざりにしてはならない。もし何らかの善が成し遂げられたら、その功績を自分のものとしてはならない。神だけが高められるべきである。神だけがそれらすべてをなされたのである。」（教会への証 2 巻 52, 53）

3. 言葉の黄金律

a. だれか他の人の欠点について、他人に話そうとする誘惑に抵抗するのを、何が助けるべきですか（ルカによる福音書 6:31; 箴言 25:9）。

「あなたは、自分の兄弟や姉妹の悪を、まずその人のところへ行って、神が明白に命じてこられた段階をとる前に、隣人や他人に話すことを言い訳してきた。あなたは言う、『あら、わたしは自分が抑えきれなくなるまで重荷を感じてからでなければ、だれにも話したことはありません』。何があなたの重荷となったのか。単に主はこう言われるという自分自身の義務をあからさまになおざりにしたことではないのか。あなたは違反者のところへ行って、あなたとその人だけの間で、その人の欠点を告げなかったために、罪悪感の下にいる。もしあなたがこうしなかったなら、もしあなたが神に従わなかったなら、あなたが神のご命令を足の下で踏みにじりながら、心に自分の兄弟や隣人を憎んであなたの心がかたくなにされるなら、重荷を負う以外にないではないか。そしてあなたが自分の重荷を取り除くためにどの方法を見出してきたのか。神はあなたの兄弟の過ちをあなたの兄弟に告げなかった怠慢の罪をお責めになる。そしてあなたは、自分の兄弟の欠点を他人に告げる罪を犯すことによって、自ら言い訳し、なぐさめる！これが、安逸を買う正しい方法だろうか、すなわち、罪を犯すことによって得ることが。」（教会への証 2 巻 53）

b. 過ちがある人に近づくことによって、その人はどのように反応するかもしれませんか（箴言 14:16）。しかしなお、この危険があるにもかかわらず、わたしたちの義務は何ですか。

「まちがっている人には自分の体験を語って助け、自分がひどく失敗したとき、共労者の忍耐親切、また助力が、どれほど自分に勇気と希望を与えたかを示しなさい。」（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 480）

「過ちを犯している人を救うためのあらゆるあなたの努力は目的を達しないかもしれない。彼らは善に対して悪で報いるかもしれない。彼らは罪を自覚するよりも怒るかもしれない。もし彼らがなんの良い目的にも耳を貸さず、自分の始めた悪い道を行き続けるなら、どうすればよいか。これはしばしば起こる。時には、最もおだやかで優しい譴責もなんの良い結果をもたらさない。そのような場合、他の人が悪を行うことをやめ、善を行うことを学んで義の道を行くことによって受けるようにとあなたの望んだ祝福が、あなた自身の懐へ戻ってくる。もし過ちを犯している人が罪のうちにい続けるなら、彼らを親切に取り扱い、彼らをあなたの天父に任せなさい。あなたは自分自身の魂は救ったのである。彼らの罪はもはやあなたの上にはおかれていない。あなたは今や彼らの罪にあずかってはいない。」（教会への証 2 巻 53, 54）

4.　　自分自身の弱点によってへりくだる

a.　なぜわたしたちは中傷という文化に打ち勝たなければなりませんか（テトスへの手紙 3:2; ヤコブの手紙 4:11）。

「だれのことも悪く言ってはならない。だれの悪も聞いてはならない。もし聞く人がいなければ、悪を語る者はいなくなる。もしだれかがあなたのいるところで悪を語るなら、彼を止めなさい。彼の言うことを聞くことを拒みなさい、どんなに彼の言い方が非常に柔らかく、彼の語調がおだやかであったとしても。彼は愛情を装うかもしれないが、品性を暗さのうちに表す隠れたほのめかしや中傷を投げ捨てなさい。
断固として聞くことを拒みなさい。ささやく者が自分が語るまで重荷だと文句を言ったとしても。実に重荷である！友を引き離すのろわれた秘密を負うものである。重荷を負った者よ、行って、神のお定めになった方法で、自らの重荷を解き下ろしなさい。まずあなたの兄弟のところへ行って、あなたとその人だけの間で、その人の過ちを告げなさい。」（教会への証 2 巻 54）

b.　過ちのある人が聞き入れることを拒んだ時にのみ、どうなりますか（マタイによる福音書 18:16, 17）。

「もし、それがうまくいかなかったら、次にあなたがとるべきなのは、あなたと一緒に一人、二人の友を連れて行き、彼らのいるところで、その人に告げることである。もしこの段階でもうまくいかなかったら、そのときは教会へ告げなさい。この問題についてほんのわずかでも、未信者が知るようなことがあってはならない。それを教会へ告げるというのが、とるべき最終手段である。それをわたしたちの信仰の敵に宣伝してはならない。」（同上）

c.　何が真の回復をなすか、壊すかのいずれかになり得るかを説明しなさい（ガラテヤ人への手紙 6:2, 3）。

「回復の働きがわたしたちの重荷となるべきことを心にとめていなさい。この働きは、誇り高い、差し出がましい、巧みな方法では成し遂げられない。あなたの方法によって、次のように言ってはならない、『わたしには力がある、そしてそれを行使するつもりだ』。それから、誤っている者に非難を注ぎだしてはならない。…わたしたちの前におかれている兄弟のためになすべき働きは、彼らをわきへどけることではなく、『あなたはわたしを失望させた。わたしはあなたを助けようとは思わない』と言うことによって、彼らを失望と絶望に落とし込むことではない。自らを知恵と力に満ちている者として立て、そして押しつぶされ、意気消沈し、助けを切望している人の上にのしかかって押さえつける人は、パリサイ人の精神を表しており、自らの回りに自己で決めた自分自身の尊厳の衣を巻きつけている。自分の精神のうちに彼は他の人のようでないことを神に感謝する。そして自分のとる行動は賞賛に値すると考え、自分が十分強くて誘惑されることはないと思う。」（同上 6 巻 398, 399）

木曜日 *12月16日*

5.　　より深い謙遜を学ぶ

a.　どのように、キリストのためのわたしたちの証言を損なうことがないようにできますか（ガラテヤ人への手紙 6:4, 5）。

「わたしたちの世にある（そしてこれは教会の中でも、いたるところの社会の中で）最大ののろいの一つは、最上位を愛することである。人は力と人気を得ようと努めることに夢中になる。この精神は、悲しく恥ずかしいことに、それ自体、安息日遵守者の一団のなかでも見られてきた。しかし、霊的な成功は、ただキリストの学校で柔和と心のへりくだりを学んできた人々にもたらされるのである。」（教会への証 6 巻 397）

「自分を兄弟よりも判断と経験において優れていると考え、彼らの勧告や訓告をさげすむ人は、危険な思い込みのうちにいることが明らかである。心はいつわるものである。自分の品性と生活を聖書の標準によって試すべきである。…すべての人は最終的に自分で立つか、倒れるかである。それは、その人を支えるか、もしくは反対する団体の意見によってではなく、だれかの判断によってでもなく、神の御目にその人の実際の品性によってである。」（教会への証 5 巻 247, 248）

b.　わたしたちの感化は、どのように他の人々に本物の希望をもたらすことができるでしょうか（ガラテヤ人への手紙 6:6–10）。

「矛盾した不合理、無価値なものに対してとった親切な思慮深い行為が、どんな感化を及ぼしたかは、さばきの日までわからない。わたしたちが恩知らずや聖なる信頼を裏切る者にあうと軽蔑した気持や義憤をあらわしたくなる。そうした人は、それを待ちかまえていてそれに対抗する準備をしている。しかし思いやりのある忍耐をもって接するとき、彼らを驚かせ往々彼らの心の中の良い精神を呼び起し、さらに高尚な生活への希望を起させることがある。」（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 480, 481）

金曜日 *12月17日*

個人的な復習問題

1. **ルシファーのどの特徴が、すべてのクリスチャンから根こそぎにされなければなりませんか。**
2. **だれかほかの人のことを正そうと考える前に、まずわたしは何を考えなければなりませんか。**
3. **もしわたしの言葉がだれかを助けたように見えても、なぜ功績を自分のものとしてはならないのですか。**
4. **ときに、わたしはどのように中傷という文化に加担する罪を犯してきたかもしれませんか。**
5. **なぜわたしの生涯においてもっとも誇りの傷ついたときが、わたしにとって最善だったかもしれませんか。**

第 13 課　　安息日 2021 年 12 月 25 日

十字架を掲げる

暗唱聖句：「しかし、わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは、断じてあってはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである。」（ガラテヤ人への手紙 6:14）

「十字架にかかられながら、キリストは福音であられた。…わたしたちの教会員は自分たちの目を十字架につけられ、よみがえられた救い主、自分たちの永遠の命の希望が集中しているお方にとめ続けないであろうか。これがわたしたちのメッセージであり、わたしたちの議論であり、わたしたちの教理であり、悔い改めない者へのわたしたちの警告、悲しんでいる者へのわたしたちの励まし、すべての信徒のための希望である。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1113）

推奨文献：　患難から栄光へ上巻 216–226

日曜日　*12 月 19 日*

1.　有能な牧会の意味

a.　パウロの働きについて、何が顕著でしたか（コリント人への第二の手紙 3:2, 6–9）。

「この時代において、牧師の数は多いが、有能で、きよめられた牧師、すなわち、キリストの心に宿った愛に満たされた人々は、実に少ないのである。誇り、自己過信、世を愛する心、あらさがし、辛辣さ、ねたみなどが、キリストの宗教を表明する多くの者の結ぶ実である。その人々の生活は、救い主の生涯とは著しい対照をなしていて、しばしば、彼らが、どのような牧師の働きの下に改心したかという悲しいあかしを立てる。

人間にとって、福音の有能な牧師として神に受けいれられること以上に大きな栄誉はない。しかし、主が、主の働きにおいて力と成功を与えて祝福される人々は、誇ったりしない。彼らは、自分たちが、主 に全く依存していることを認め、自分たちの無力を自覚している。」（患難から栄光へ下巻 6, 7）

b.　どのようなことが起こり、偽教師たちの側で、真の牧師の働きについて理解が足りなかったことがあらわれましたか（ガラテヤ人への手紙 6:12, 13）。

2.　　十字架上の死を提示する

a.　わたしたちのためのキリストの犠牲を熟考するよう、わたしたちの思いと心をとどめるとき、何が起こるかを説明しなさい（ヨハネによる福音書 1:29）。

「もし罪人にひとたび十字架を熱心に見させることができるならば、もし彼らが十字架につけられた救い主についての全貌を知り得たら、彼らは神の深いあわれみと自分の罪の深さとを認めるようになるであろう。

キリストの死は、人類に対する神の深い愛を証明している。それはわれわれの救いの保証である。クリスチャンから十字架を取り除くことは、空から太陽をおおい隠すようなものであろう。十字架はわれわれを神に和解させ、われわれを神に近づかせる。父親の愛の優しいあわれみをもって、神は、人類を永遠の死から救うためにみ子が耐えられた苦悩をご覧になり、愛するみ子によってわれわれを受け入れてくださるのである。

十字架がなければ、人は神と和合することができなかった。われわれのすべての望みは十字架にかかっている。そこに救い主の愛の光が輝いている。罪人が十字架のもとで、彼を救うために死なれたおかたを見上げるときに、彼は満ちたりたよろこびを味わうのである。それは彼の罪が赦されたからである。信仰をもって十字架のもとにひざまずくとき、彼は人が到達できる最高の場所に到達しているのである。

われわれは、天のみ父が無限の愛をもってわれわれを愛してくださっていることを、十字架によって学ぶのである。」（患難から栄光へ上巻 225, 226）

b.　しかしなお、十字架を提示するにあたり、パウロは何に直面しましたか（コリント人への第一の手紙 1:22, 23）。

「現代に住む人々の心にとって、カルバリーの十字架は神聖な思い出につつまれたものである。キリストの受難の光景は神聖なものを連想させる。しかし、パウロの時代には、十字架は拒絶と恐怖の感情をもって眺められていた。十字架上で死を遂げた者を人類の救い主として支持すれば、当然、嘲笑や反感を呼び起こしたであろう。

パウロは自分の使命が、コリントのユダヤ人やギリシヤ人にどのように受けとめられるかをよく知っていた。「わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝える。このキリストは、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものである」と、彼は認めていた（コリント第一 1:23）。ユダヤ人の聴衆の中には、パウロが宣べ伝えようとしていた使命に腹を立てる人々がたくさんいたであろう。ギリシヤ人の見るところでは、パウロの言葉はばかげた愚言であったであろう。十字架が民族を高尚にし、人類を救うことに関係があるということを示そうとしたパウロは、知能の低い者とみなされたであろう。」（同上 264）

3.　　わたしたちが悟るよりさらに力強い

a.　反対に直面して、パウロは説教だけでなく、実際何を最高にほめ讃えましたか（ガラテヤ人への手紙 6:14）。それはなぜですか。

「パウロにとって、十字架は最高の関心をはらうべき唯一の対象であった。パウロは、十字架にかけられたナザレ人に従う者たちを迫害していたさ中に捉えられて以来、ずっと、十字架をあがめつづけてきた。その時、キリストの死に表された、神の無限の愛についての啓示が彼に与えられたのである。そして、彼の人生に驚くべき変化が起こり、彼のすべての計画と目的が天と一致するようになった。その時からパウロは、キリストにある新しい人になった。罪人がみ子の犠牲の中に見られる天父の愛をあおぎ見て、神の感化力に従うとき、心に変化が起こり、それ以後、キリストがすべてであり、すべてのもののうちにおられると悟るようになることを、パウロは個人的な経験から知った。（患難から栄光へ上巻 264 ～ 265）

「十字架、十字架、それを掲げなさい…そしてそれを持ち上げる行為において、あなたはそれがあなたを持ち上げ、あなたを支えるのを見出して驚くであろう。逆境にも、欠乏にも、悲しみにも、それはあなたにとって強さとなり杖となる。あなたはそれに憐れみ、同情、共感、そして筆舌に尽くしがたい愛がかかっているのを見出す。それはあなたにとって、不死の誓いであることが証明されるであろう。」（教会への証 2 巻 47）

b.　詩篇記者は、十字架の偉業をどのように説明していますか（詩篇 85:10）。

「罪人がイエスをありのままに、ことごとく憐れみに満ちた救い主として見るとき、希望と保証が彼の魂をとらえる。無力な魂は何一つ残さずイエスに身を投げる。何一つ十字架につけられたキリスト・イエスを見ながら、いつまでも疑いを持つことはできない。不信は去る。…

この犠牲は、人を本来の完全さに回復する目的で捧げられた。しかり、それ以上に、それは罪人に品性の完全な改変を与え、勝ち得て余りあるものにするために、捧げられたのである。…

キリストは次のように宣言しておられる、『わたしがこの地から上げられる時には、すべての人をわたしのところに引きよせるであろう』。もし十字架が有利になる感化力を見出さないなら、感化力を創造する。各世代にわたって、この時代のための真理は現代の真理として明らかにされている。十字架上のキリストは、いつくしみとまこととが共に会い、義と平和とがたがいに口づけをする媒体であった。これが世界を動かす手段である。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1113）

4. 他にない展望

a. 十字架を熟考することは、どのようにわたしたちの生涯を変えますか（ヨハネによる福音書 12:32）。

「思いがカルバリーの十字架に引き寄せられるとき、キリストは恥ずべき十字架上で不完全な視力で見定められる。なぜ、このお方は死なれたのであろうか。罪の結果である。罪とは何か。律法の違反である。そうであれば、目は罪の性質を認めるために開かれる。律法が破られたが、違反者を許すことはできない。それはわたしたちの養育掛であり、刑罰を宣告する。救済策はどこにあるであろうか。律法はわたしたちをキリストへと駆り立てる。このお方はご自分の義を堕落した罪深い人間に与え、こうして人々をご自分の義なるご品性のうちに御父に提示できるために十字架にかかられた。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1巻 341）

「イエスは過去の罪をご覧になり、そして許しを語られる。そうであれば、わたしたちはこのお方の愛を疑うことによって、このお方を辱めてはならない。この罪悪感はカルバリーの十字架の下におかなければならない。罪深さの感覚は命と真の幸福の泉を毒してきた。今、イエスは次のように言われる、『それをみなわたしの上に置きなさい。わたしがあなたの罪を引き受ける。わたしはあなたに平安を与える。もはや自尊心を消してはならない。なぜなら、わたしがあなたをわたし自身の血潮という代価で買ったからである。あなたはわたしのものだ。あなたの弱くなった意思を、わたしは強めよう。あなたの罪に対する呵責をわたしは取り除く』。そうであれば、あなたは不確かさに震えていた感謝の心を、このお方に向けて、自分の前におかれた希望をつかみなさい。神はあなたの悔いくずおれた心を受け入れ、無償の許しを与えて下さる。このお方は、あなたの弱さを助けるための恵みと共に、あなたをご自分の家族に養子縁組を申し出てくださる。そしてあなたが自分の手をこのお方の御手のうちにおき、このお方に案内していただくなら、親愛なる救い主はあなたを一歩ごとに導いてくださる。」（彼を知るために 241）

b. どのようにこれはわたしたちの態度に影響を与え、霊的にわたしたちをひき上げますか（ヨブ記 23:16）。

「見なさい、カルバリーの十字架上を見なさい。あなたのために、苦しんでおられる王なる犠牲を見なさい。…

神の御子はあなたのために拒まれ、蔑まれた。あなたは、十字架をまともに見ながら、信仰の目でキリストの苦しみをながめながら、自分の苦悩や、自分の試練の話を語れるであろうか。あなたは、キリストの祈りがこのお方の青ざめた震える唇から、ご自分を罵倒する人々、ご自分を殺す人々のために、『父よ、彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです』との祈りが出ているかたわらで、心のうちに自分の敵に対する復讐心をいだくことができるだろうか（ルカ 23:34）。」（彼を知るために 65）

木曜日 *12月23日*

5.　　新しく造られた者

a.　パウロはどのようにガラテヤ人への手紙を締めくくっていますか（ガラテヤ人への手紙 6:15–18）。それは彼らに、どのような影響がありましたか。

「パウロがイエス・キリストの福音を受け入れたとき、彼を新しく造られた者にした。彼は変えられた。彼の魂に植え付けられた真理は、キリストに従う者として、どんな反対も彼を動かしたり、どんな苦しみも彼をおびやかすことができないほどの信仰と勇気を与えた。」（信仰と行い 33）

「パウロの熱心な嘆願の言葉は、効を奏した。聖霊が、大いなる力をもって働き、誤った道に足をふみ入れた多くの者が、以前の福音の信仰に立ち帰った。その後、彼らは、キリストがお与えになった自由に堅く立った。彼らの生活には、「愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制」などの聖霊の実があらわれた。神のみ名は崇められ、その地方全体の信者の数が大いに増加した。」（患難から栄光へ下巻 72 ～ 73）

b.　この手紙はわたしたちの心に、今日、どんな印象を残しますか（マタイによる福音書 16:24–26）。

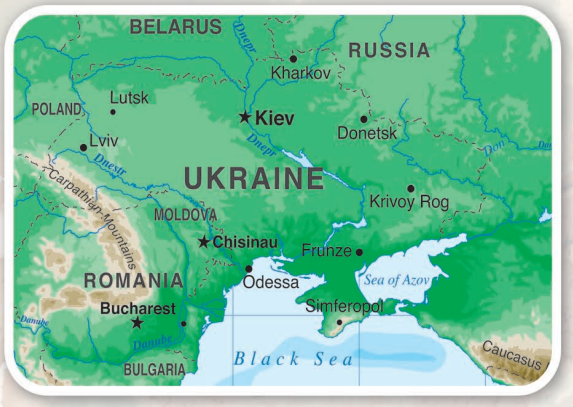
「『わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは、断じてあってはならない』とパウロが叫んだのは、当然である（ガラテヤ 6:14）。十字架を誇とし、われわれのためにご自身をお与えになった主にわれわれを全くささげることは、われわれの特権でもある。その時に、カルバリーの十字架から流れる光を顔に受けて、この光を暗黒にある者たちへ現すために出かけて行くことができるのである。」（同上上巻 226）

金曜日 *12月24日*

個人的な復習問題

1.　ガラテヤにおけるパウロの奉仕と、偽教師たちの真理を比較しなさい。
2.　カルバリーの光景は、どのように力強い方法でわたしに印象を残すはずですか。
3.　十字架をたえず、思いの目の前においておくことは、なぜ祝福なのですか。
4.　十字架を見ているとき、わたしの問題や悩みは、どうなりますか。
5.　このメッセージは、ガラテヤ人をもそうであったように、わたしをどのようによみがえらせますか。

第一安息日献金



10月2日

ウクライナ、オデッサにおける礼拝堂のために（4ページ参照）

11月6日

貧困地域の文書のために
（30ページ参照）

12月4日

ハンガリー、センテシの教会建設のために（51ページ参照）